

# 決算説明会

## 2026年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2026年2月5日

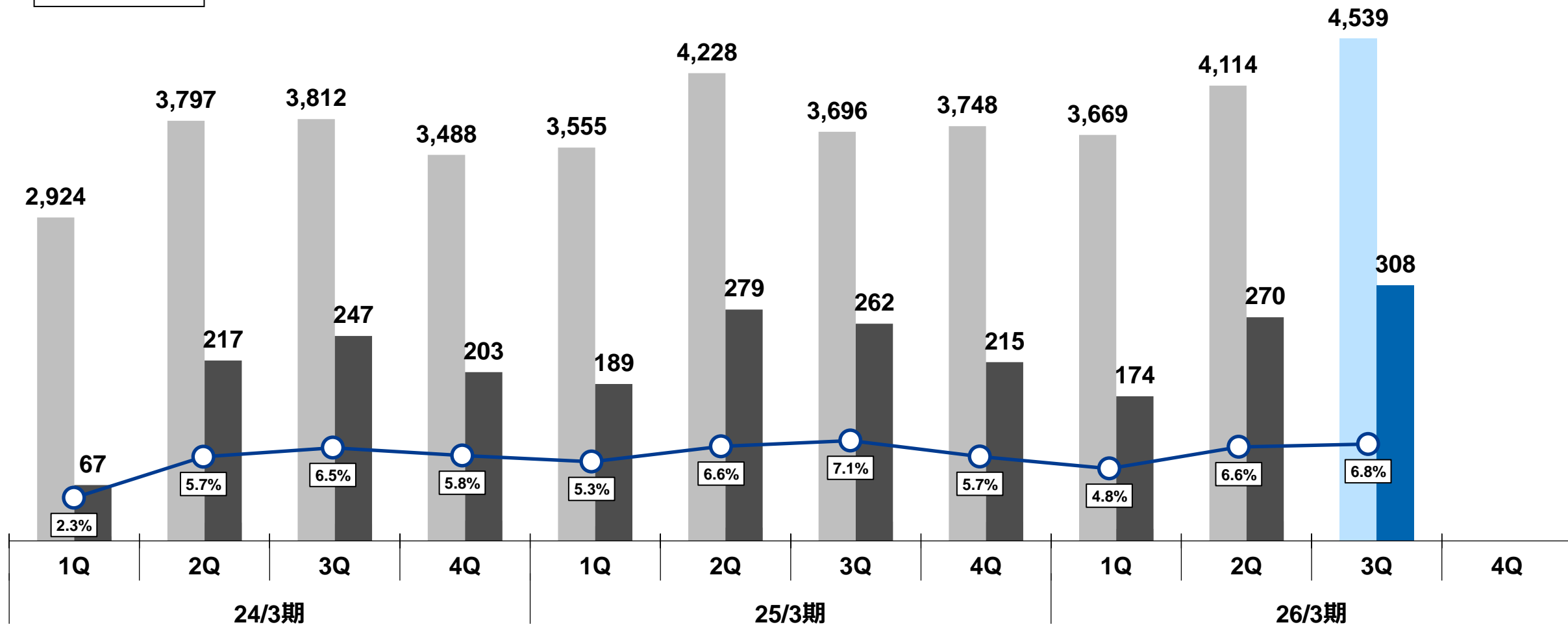
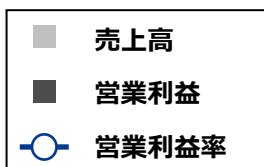
## 売上高、営業利益とも予想を上回る

(億円)	2025年3月期	2026年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	3,696	4,114	4,539	+22.8%	+10.3%
営業利益	262	270	308	+17.8%	+14.3%
税引前利益	239	248	293	+22.4%	+18.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	174	177	208	+19.4%	+17.5%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	43.36	44.07	51.79	+19.4%	+17.5%

為替レート	2025年3月期	2026年3月期	
	3Q	2Q	3Q
US\$	149.03円	146.33円	151.50円
ユーロ	161.99円	169.94円	176.38円
タイバーツ	4.42円	4.50円	4.69円
人民元	20.88円	20.39円	21.28円

# 売上高、営業利益、営業利益率

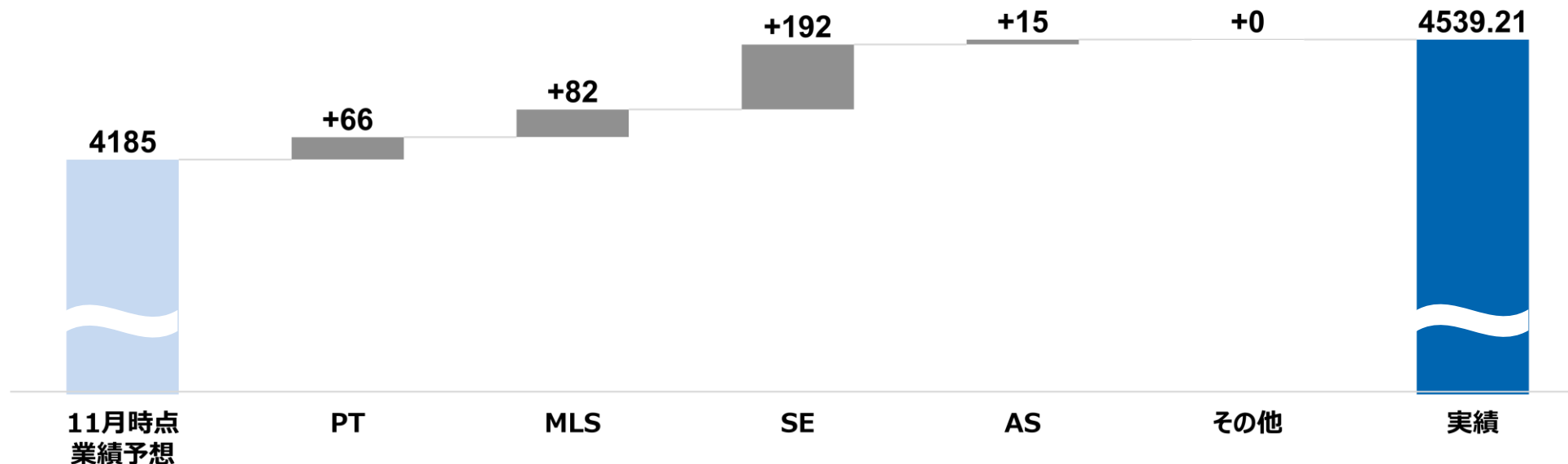
(億円)



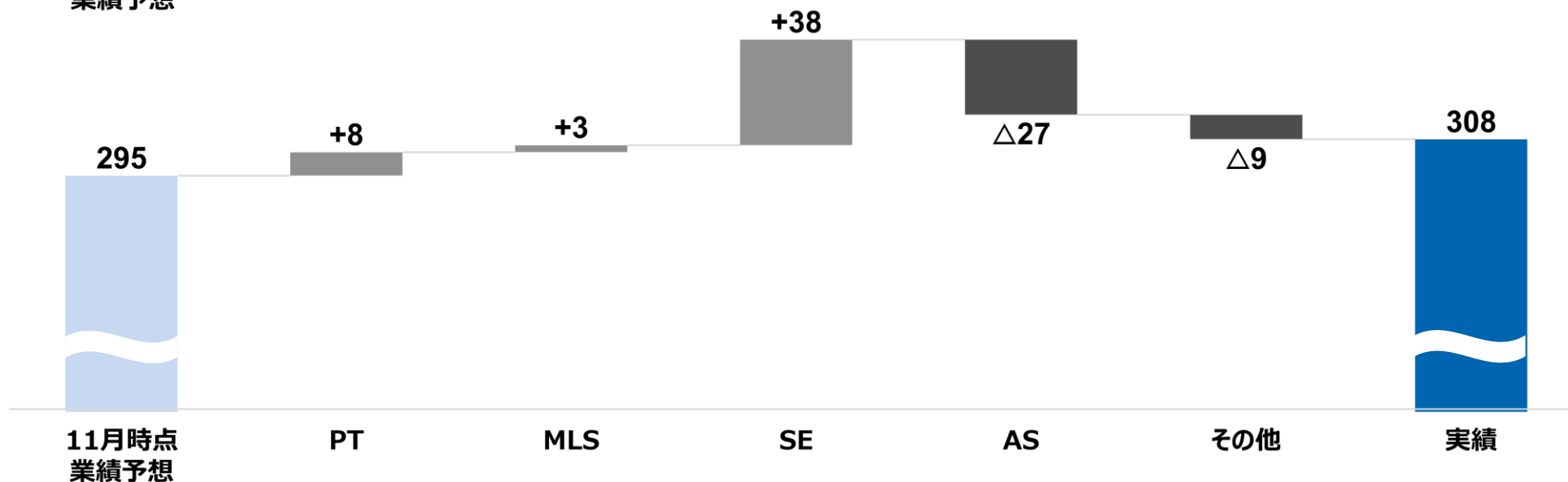
# 3Q実績 前回予想（2025年11月6日）からの差異

(億円)

売上高

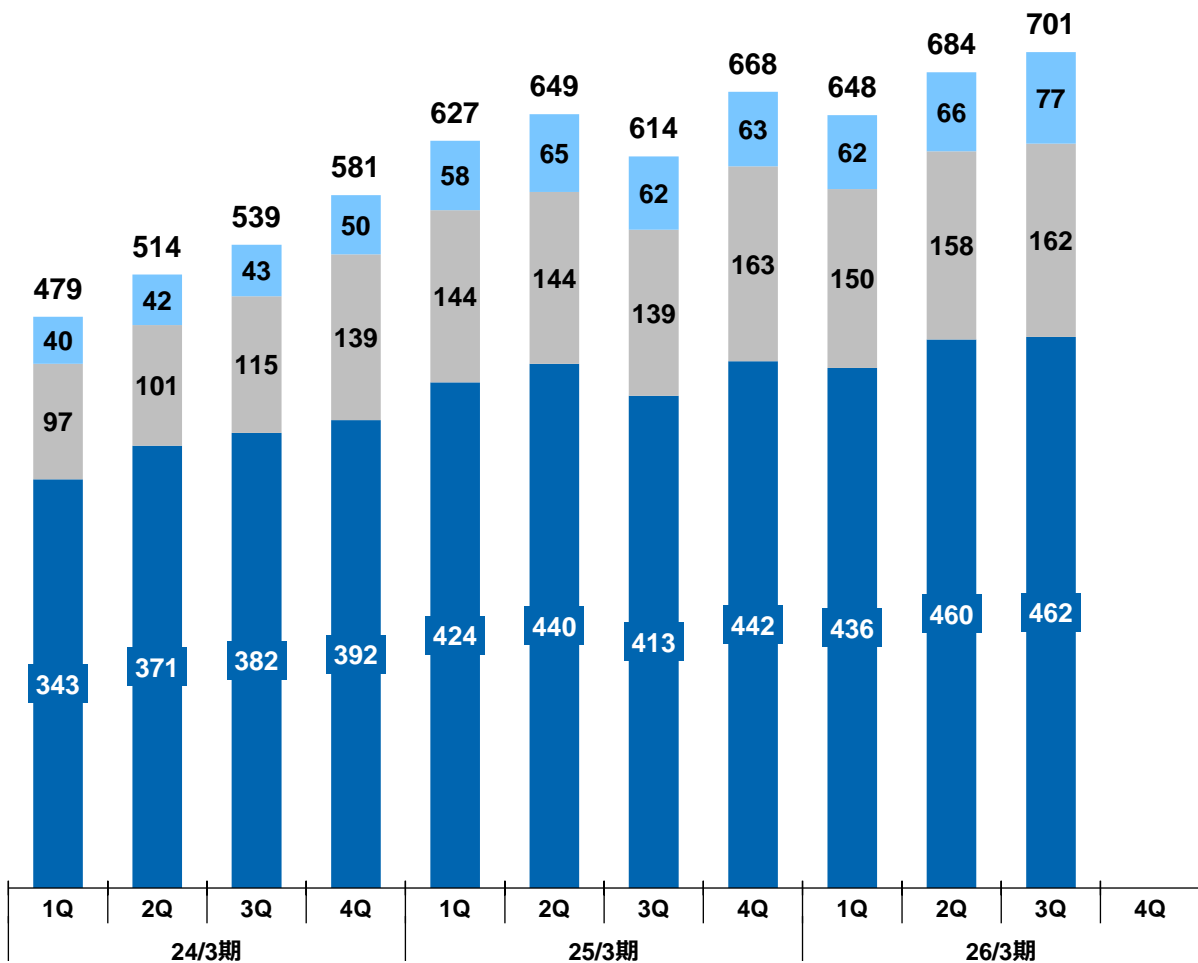
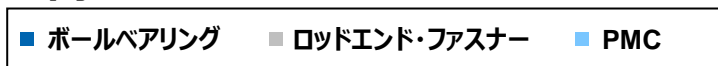


営業利益

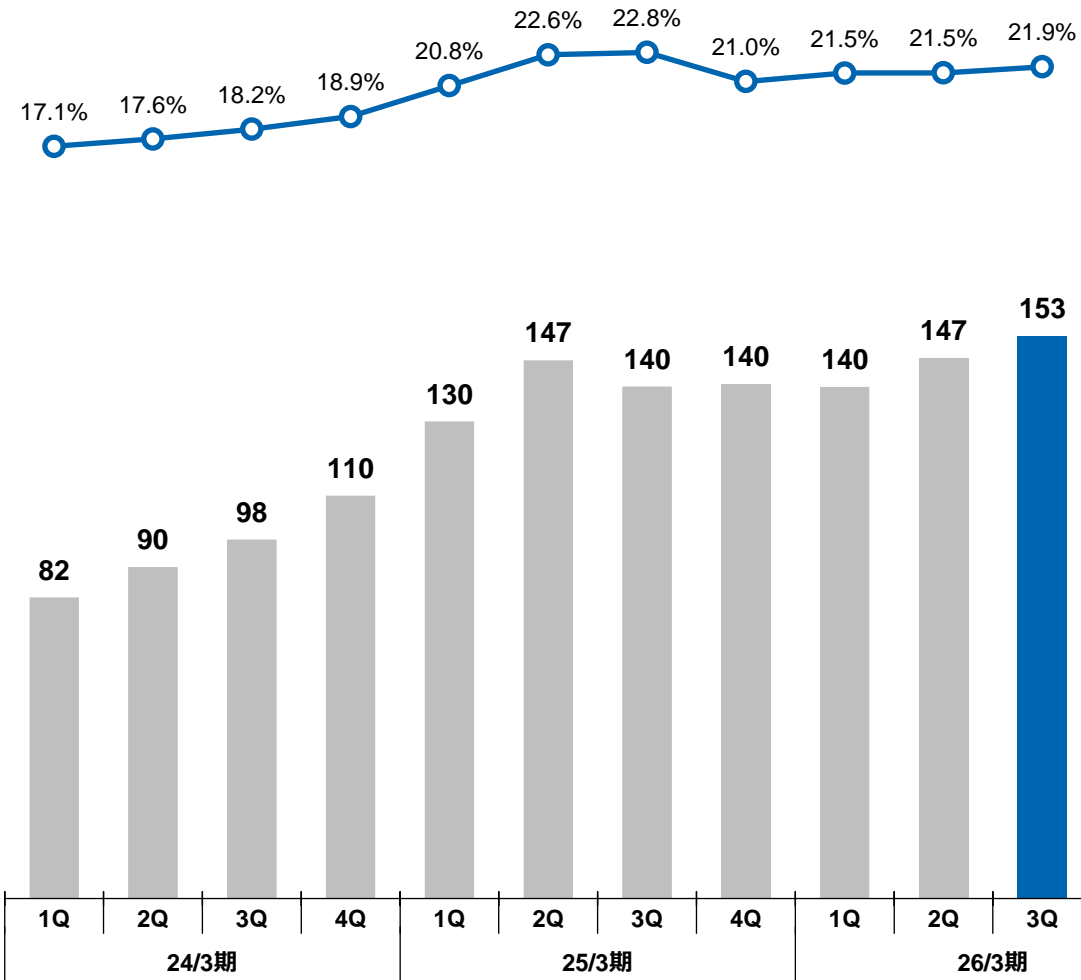


# プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (億円)



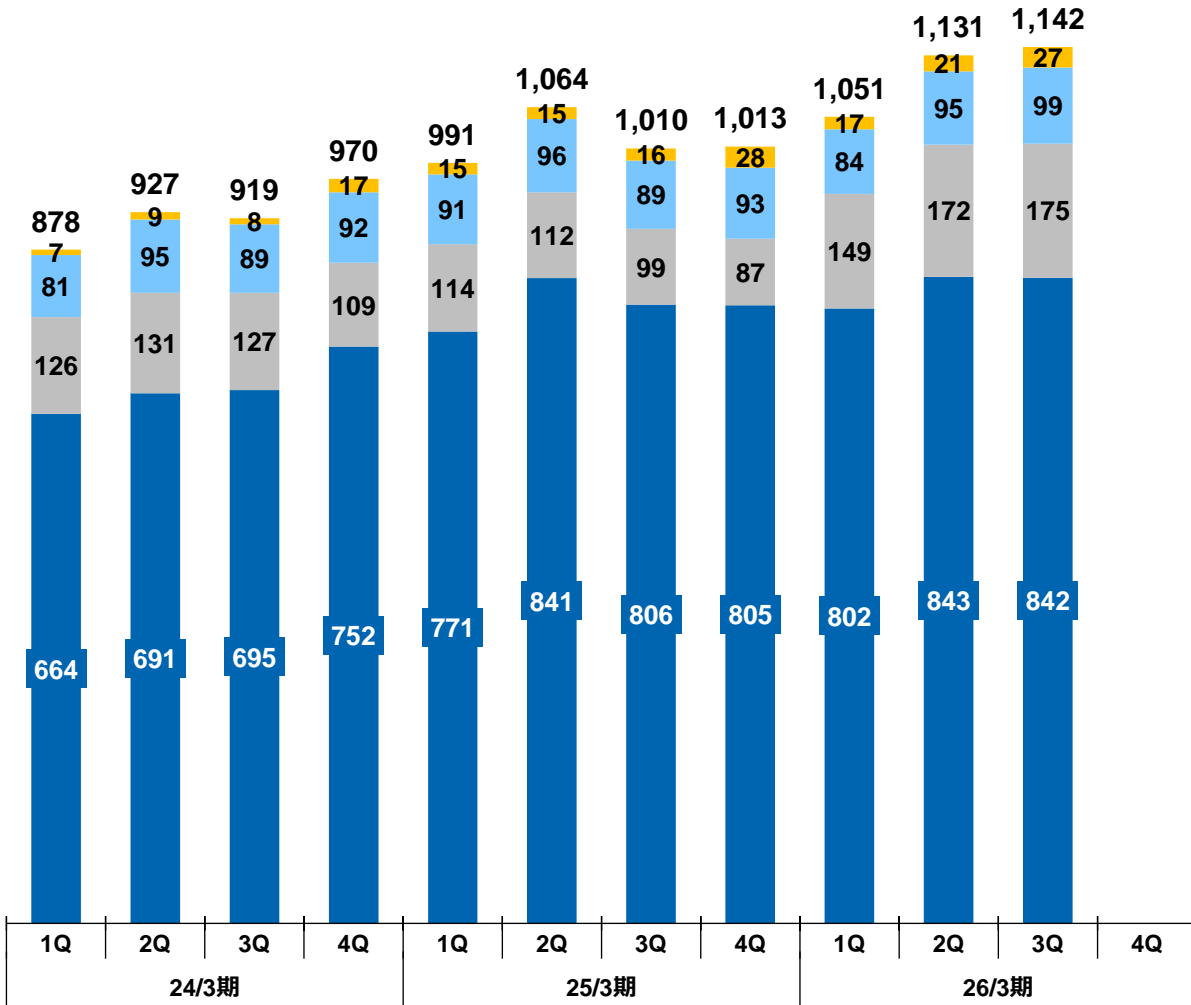
営業利益 (億円)



# モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

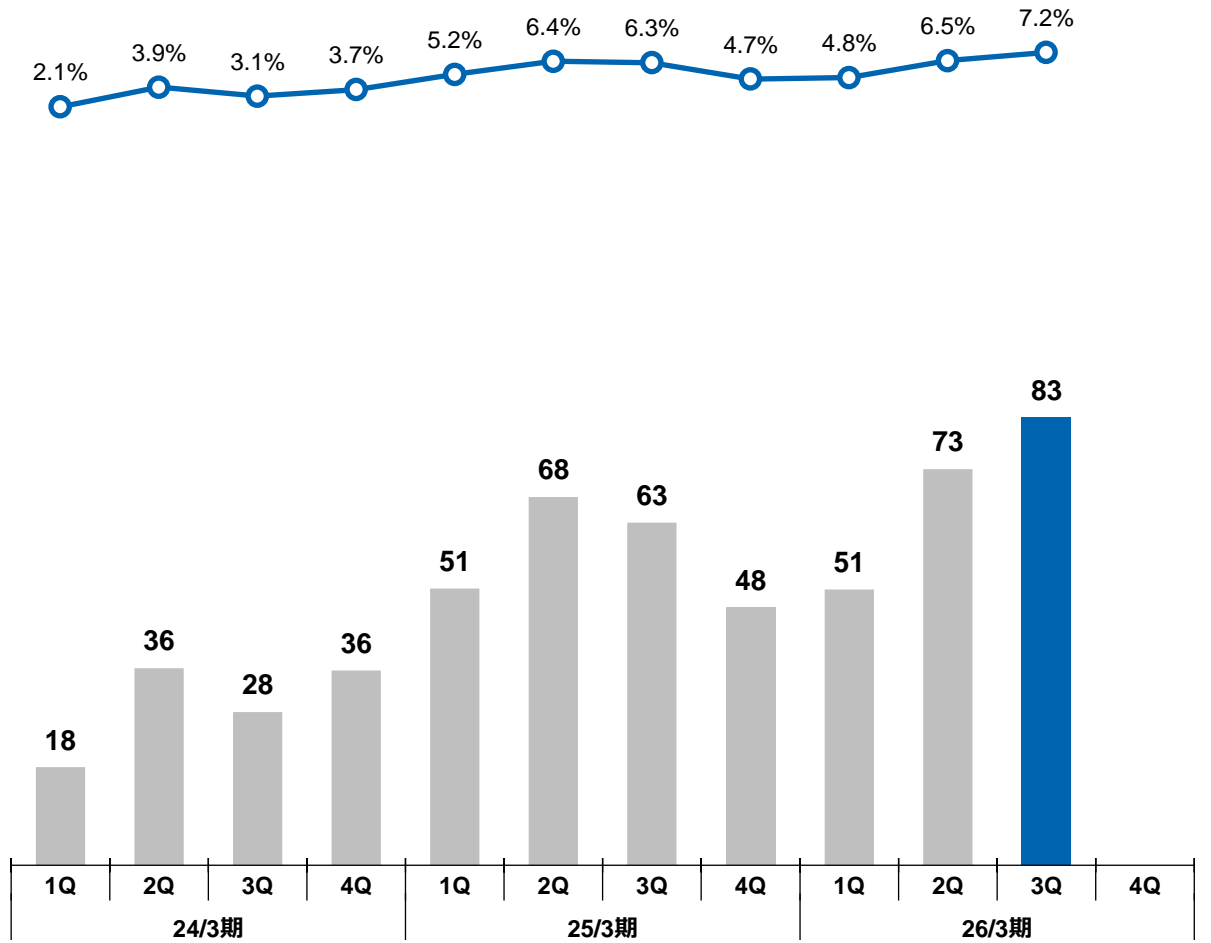
売上高 (億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



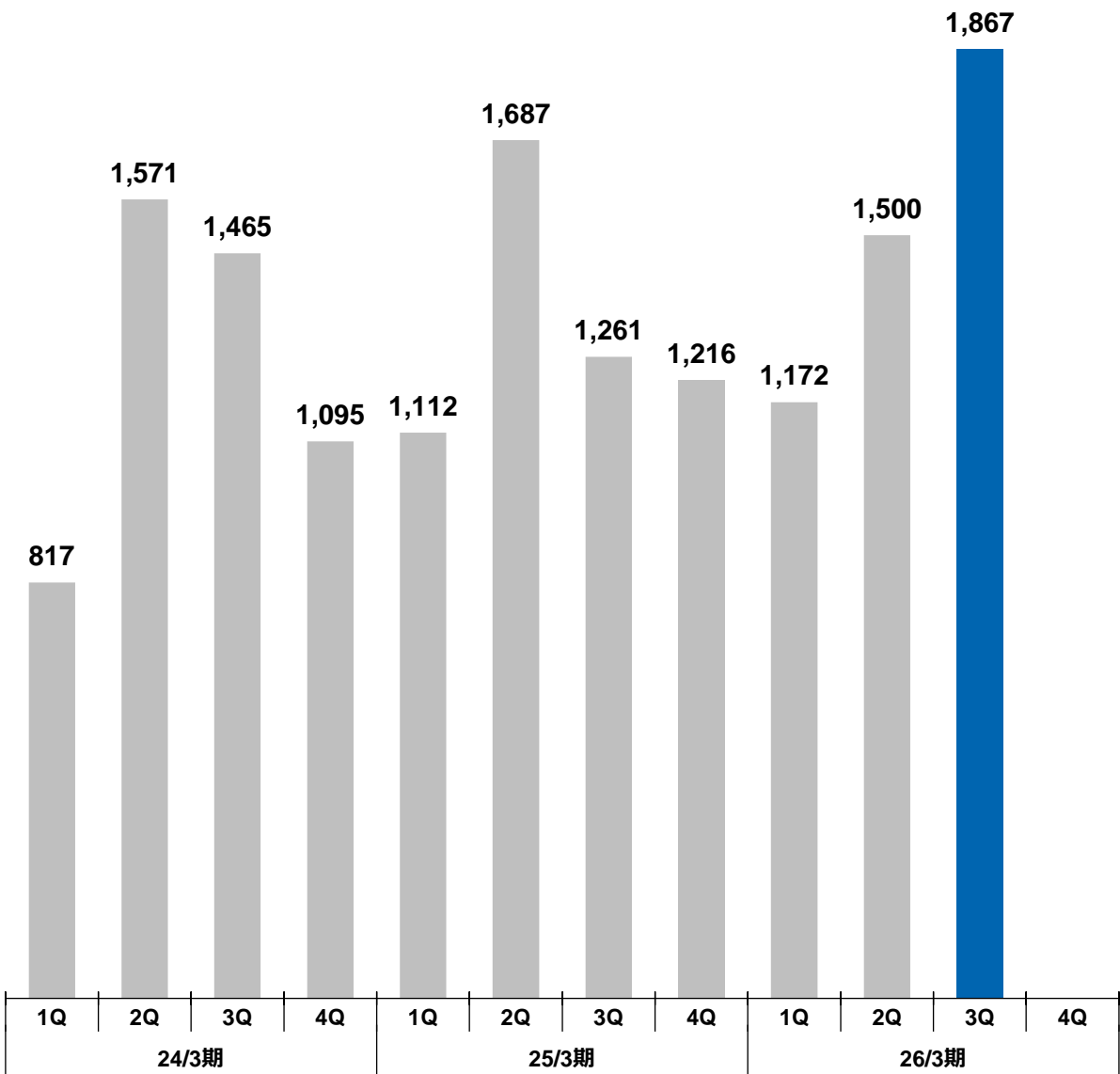
営業利益 (億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率

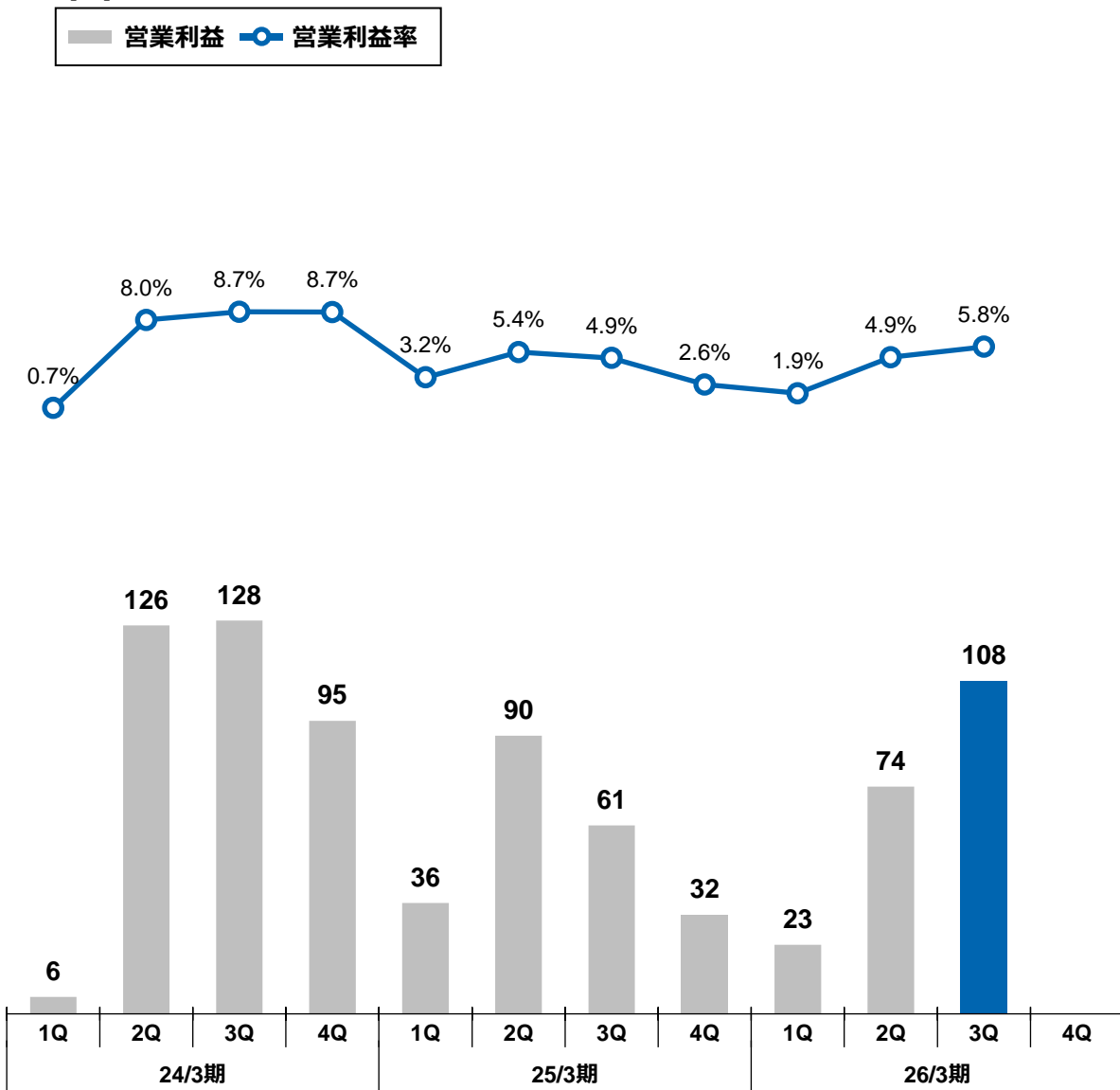


# セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

## 売上高 (億円)

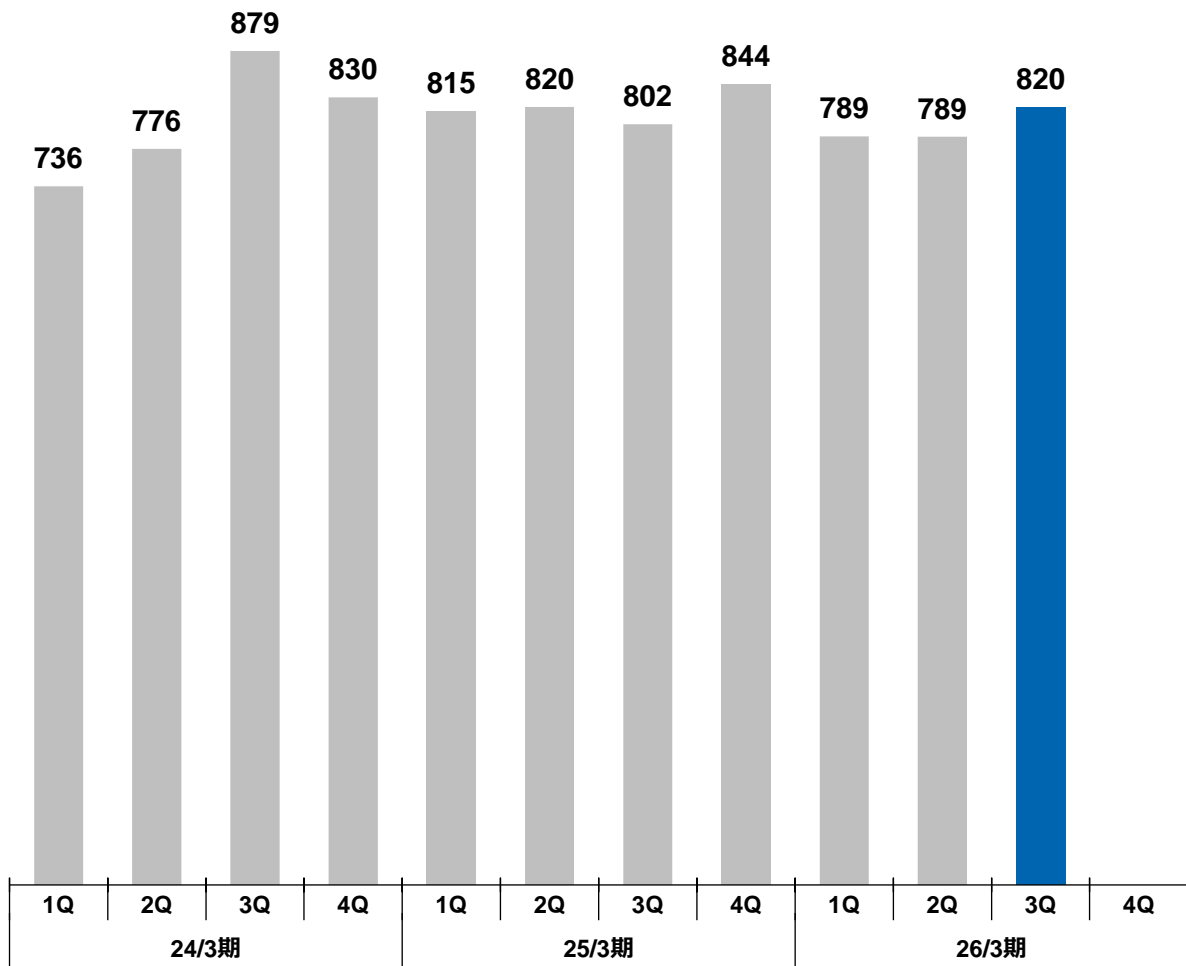


## 営業利益 (億円)

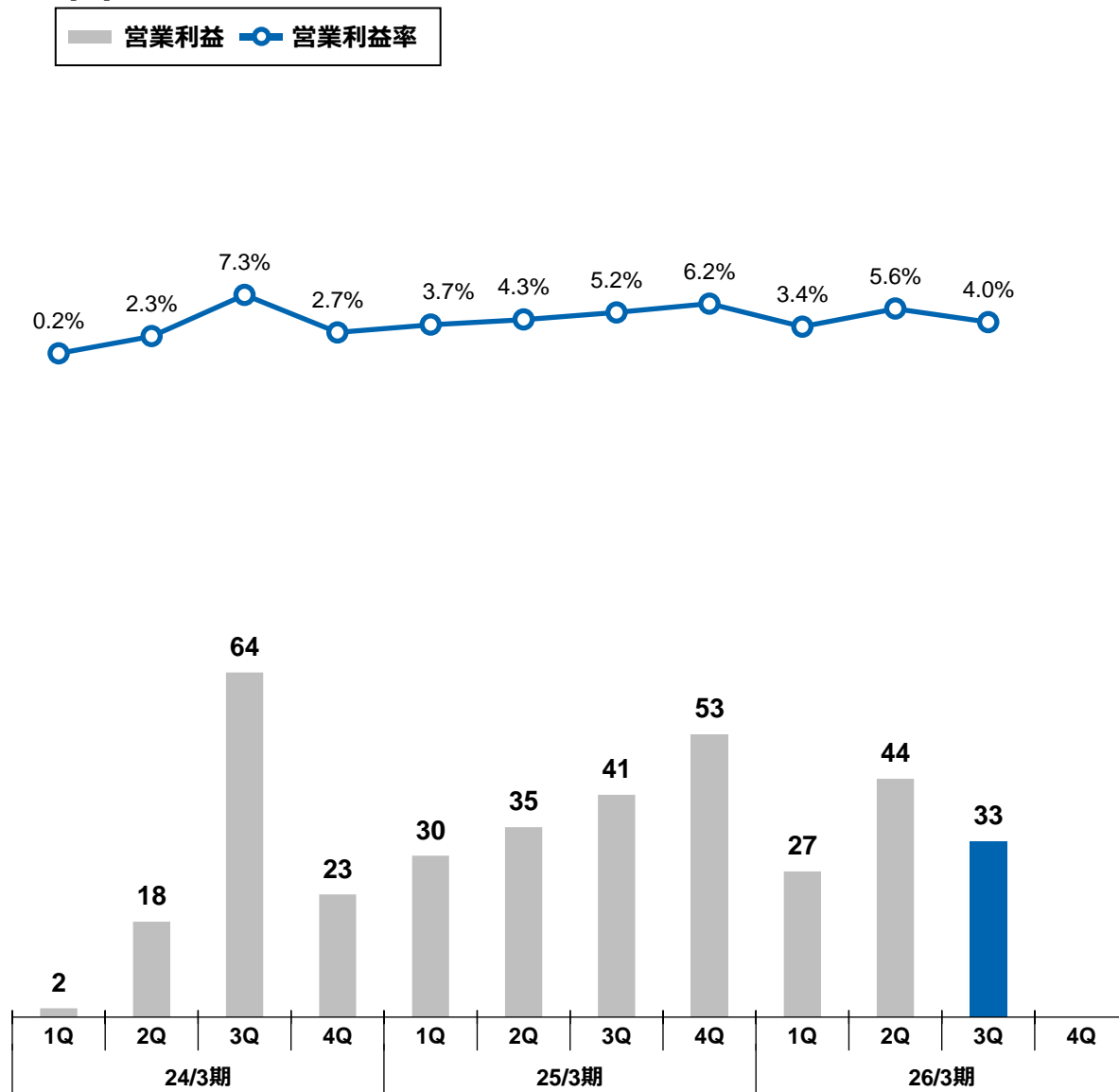


# アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (億円)



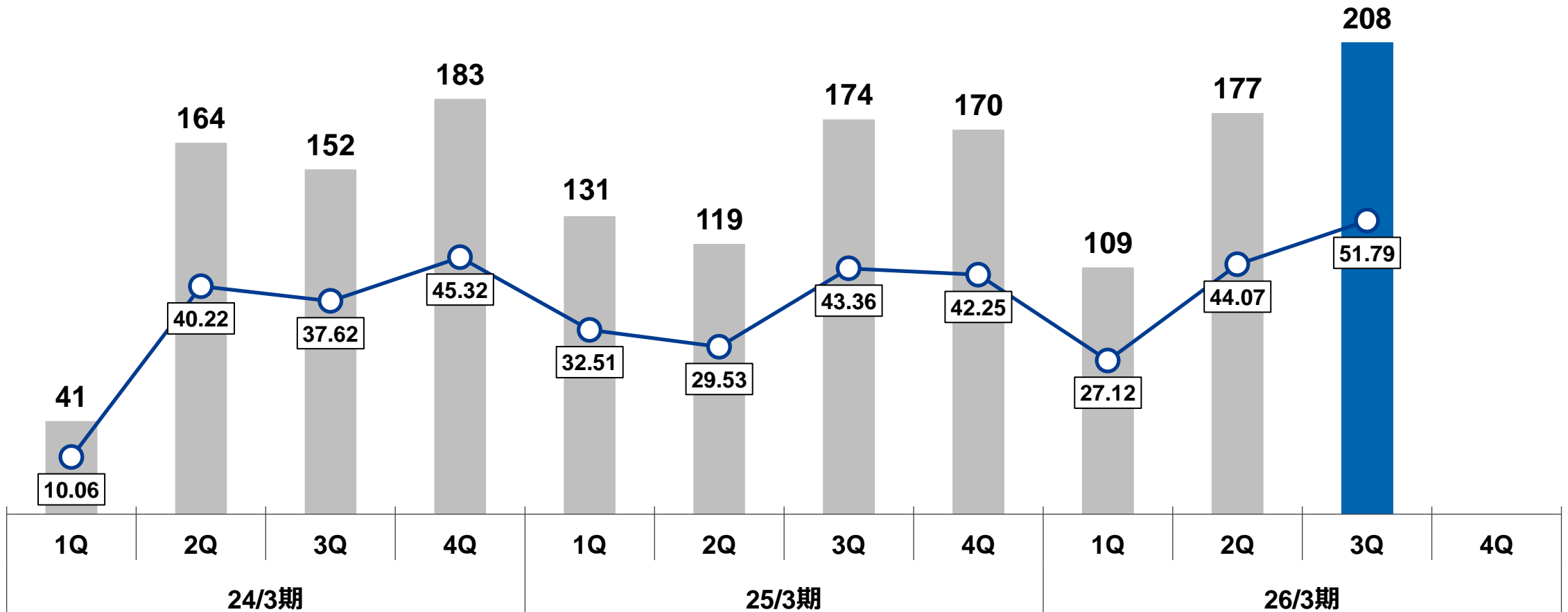
営業利益 (億円)



# 親会社の所有者に帰属する四半期利益 / EPS

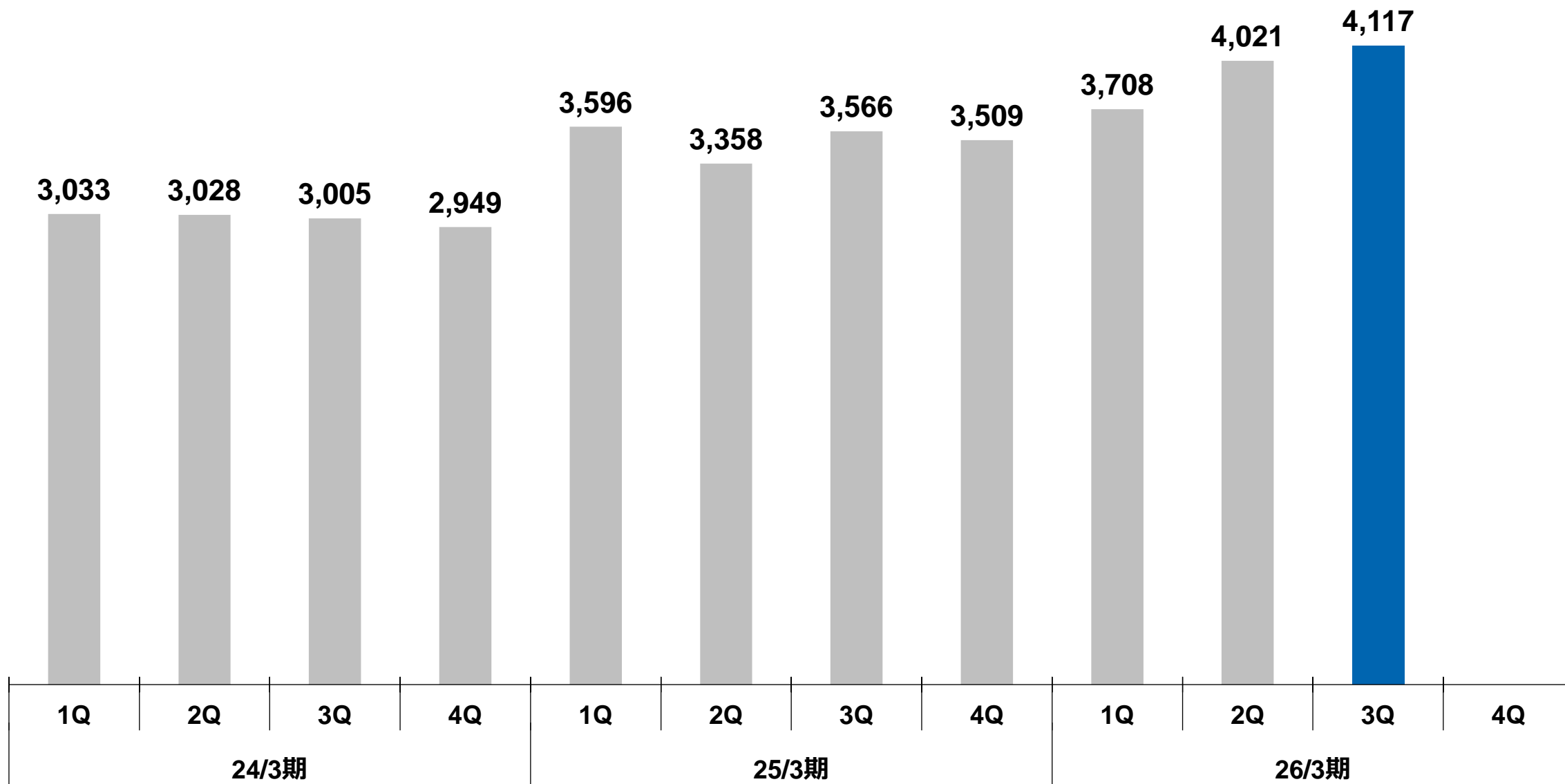
(億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益    ○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



# 棚卸資産

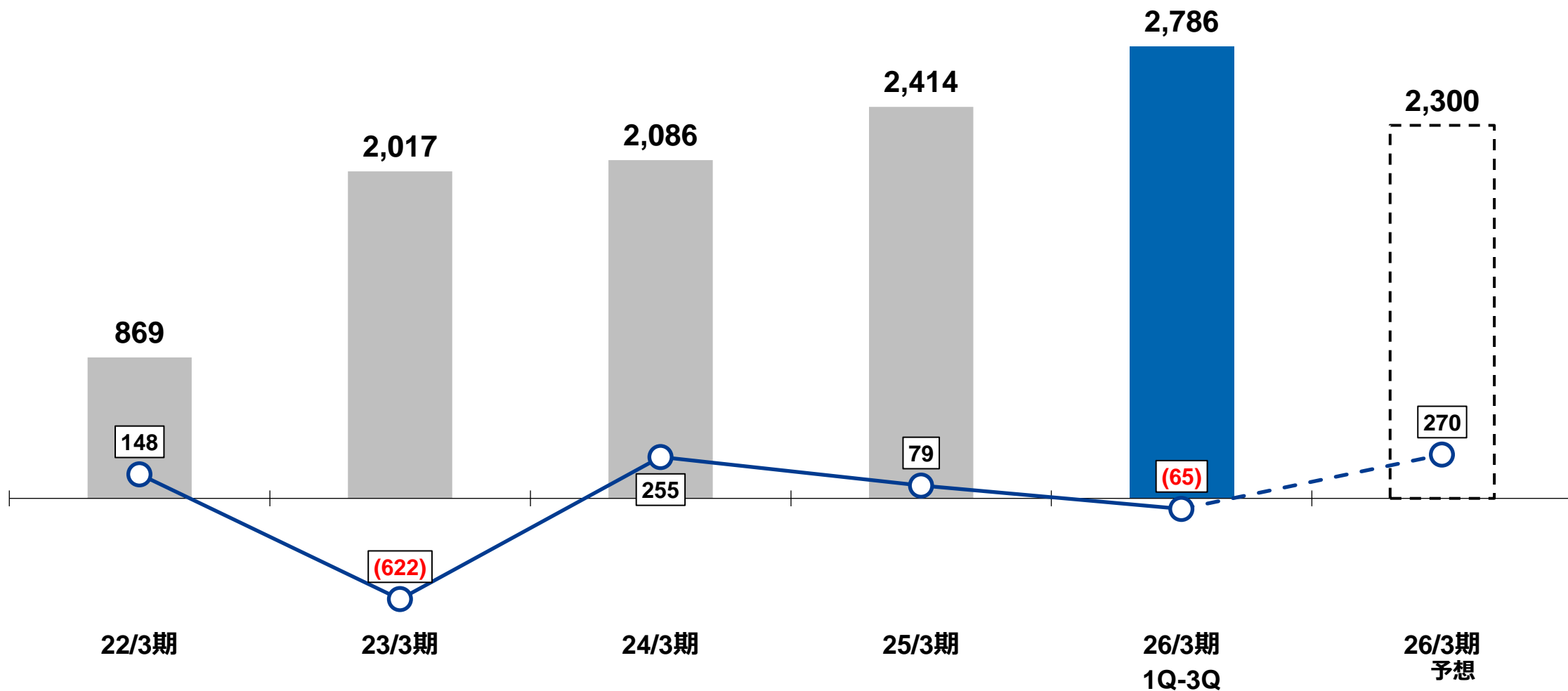
(億円)



# ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(億円)

■ ネット有利子負債\*    ○ フリーキャッシュフロー



\*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+ 3か月超の定期預金)

## 売上高、営業利益ともに上方修正

(億円)	2025年3月期 通期	2026年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	15,227	7,783	8,217	16,000	+5.1%
営業利益	※ <sup>1</sup> 945	444	566	※ <sup>2</sup> 1,010	+6.9%
税引前利益	826	404	556	960	+16.2%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	595	286	424	710	+19.4%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	147.58	71.18	105.62	176.80	+19.8%

為替レート	2025年3月期 通期	2026年3月期 4Q想定
US\$	152.61円	155.00円
ユーロ	163.89円	182.50円
タイバーツ	4.36円	5.00円
人民元	21.12円	22.20円

※<sup>1</sup> 50億円程度の一時費用が含まれています  
 ※<sup>2</sup> 40億円程度の構造改革費用が含まれています

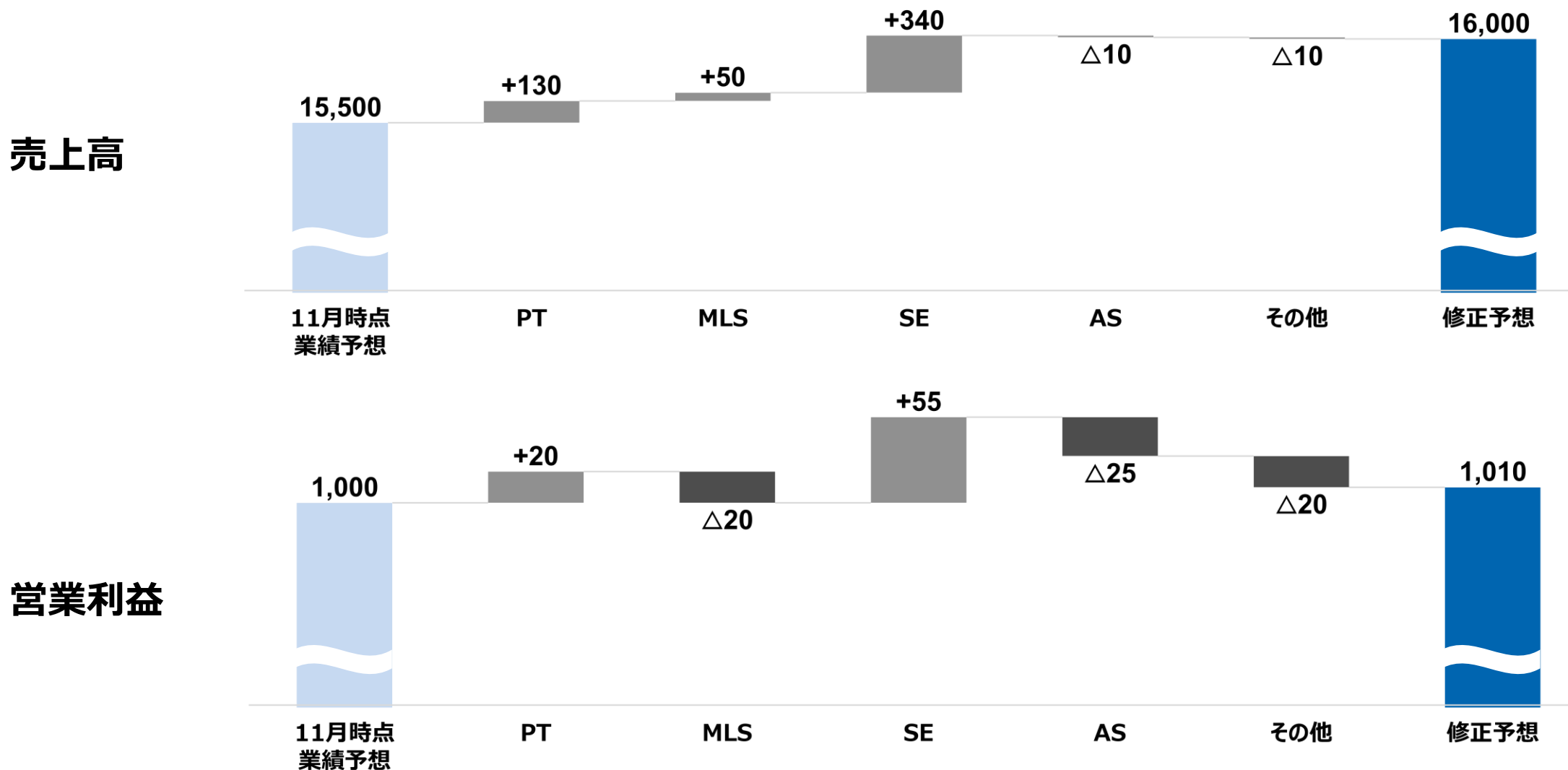
# セグメント別業績予想

(億円)	2025年3月期 通期 ※	2026年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	15,227	7,783	8,217	16,000	+5.1%
プレジジョンテクノロジーズ	2,557	1,332	1,388	2,720	+6.4%
モーター・ライティング&センシング	4,077	2,183	2,207	4,390	+7.7%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	5,276	2,672	2,978	5,650	+7.1%
アクセスソリューションズ	3,281	1,578	1,622	3,200	-2.5%
その他	35	18	22	40	+13.3%
営業利益	945	444	566	1,010	+6.9%
プレジジョンテクノロジーズ	557	287	313	600	+7.7%
モーター・ライティング&センシング	230	124	146	270	+17.5%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	220	96	149	245	+11.3%
アクセスソリューションズ	159	71	94	165	+3.6%
その他	△12	△9	△11	△20	-
調整額	△209	△126	△124	△250	-

※2025年3月期通期実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

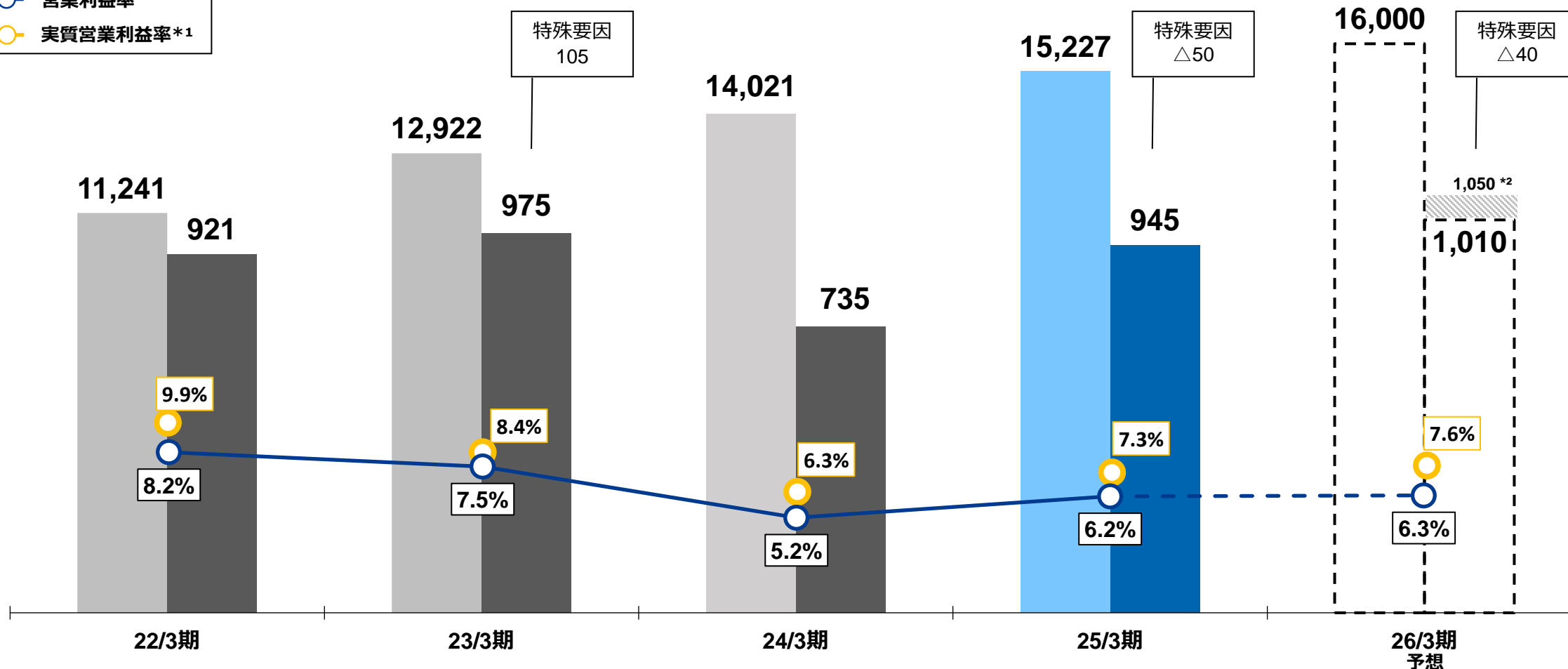
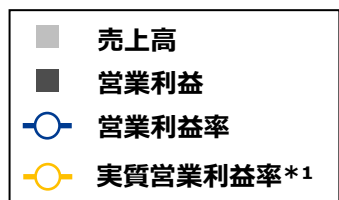
# 通期業績予想 前回予想（2025年11月6日）からの差異

(億円)



# 売上高、営業利益、営業利益率、実質営業利益率

(億円)



※1 支給部品等の売上高を除いた場合の営業利益率  
 ※2 特殊要因除く

## 全体

- 売上高・営業利益は予想を上回り、3Qとして過去最高\*を更新 (\*特殊要因を除いた場合) タイバーツ高のなか、通期の売上高・営業利益を上方修正
- コア事業の着実な進展により27/3期以降の成長軌道を確認 (為替影響は限定的)
- CES2026展示製品は高評価。ヒューマノイドロボットをはじめ、成長する5分野が今後大きな追い風に

## PT (プレジジョン テクノロジーズ)

- 26/3期営業利益600億円達成へ。ベアリングは12月単月生産3.5億個で過去最高 来期は年間で平均月産3.5億個体制へ

## MLS (モーター・ライティ ング&センシング)

- モーター、エレクトロデバイスが堅調
- (AI)サーバー関連は、HDDスピンドルモーター、ファンモーターに加え、液冷システムのポンプ/バルブ用モーターや圧力センサーなど事業機会拡大

## SE (セミコンダクタ& エレクトロニクス)

- 光デバイス、機構部品ともに期初計画達成へ
- ミネベアパワーデバイス(MPSD)とサンケン電気、民生・産業向けパワーモジュール事業の後工程生産で協業開始。28/3期量産開始目標

## AS (アクセス ソリューションズ)

- 4輪は3Q半導体出荷停止(ネクスペリア)の影響を受けるも4Q以降回復へ
- 2輪は影響なく好調を維持

## 通期業績予想 売上高1兆6,000億円、営業利益1,010億円 (前期比約7%増)へ上方修正 当期利益は据え置きも前期比約20%増

### 業績予想 のポイント

- 売上高から税引前利益まで3Q累計は過去最高を更新。4Qも好調を維持
- 各事業が堅調に推移し、売上高を上方修正
- 構造改革費用約40億円計上を想定するも、営業利益も1,010億円へ上方修正

(億円)	2025年3月期			2026年3月期					
	1-3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1-3Q 実績	前期比	4Q 計画	前期比	通期 計画	前期比
売上高	11,479	3,748	15,227	12,322	+7.3%	3,678	-1.9%	16,000	+5.1%
営業利益	730	215	945	752	+3.1%	258	+19.8%	1,010	+6.9%
税引前利益	599	227	826	697	+16.2%	263	+16.1%	960	+16.2%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 当期利益	425	170	595	494	+16.2%	216	+27.4%	710	+19.4%
<small>基本的1株当たり</small> 当期利益(円)	105.41	42.25	147.58	122.97	+16.7%	53.83	+27.4%	176.80	+19.8%

ベアリング生産数は12月に3.5億個を達成。データセンター市場・車載需要の拡大と航空機向けの利益貢献により、今期営業利益は600億円超の見通し

## 主なポイント

## 注力する5分野の進展によるベアリング所要の拡大

※5分野：AIサーバー、ヒューマノイドロボット、商用ドローン、完全自動運転、ニューモビリティ

## 1 ベアリング

- ・生産・販売数量は今期最高を更新。収益基盤を強化し、より強固な体制へ。生産能力拡大のための検討開始
- ・次世代GPUはチラー(コンプレッサー装置)不要の液体冷却で運用可能なため、ファンモーターを多数使用するLiquid to Air装置が当面優位であり当社にとっては追い風

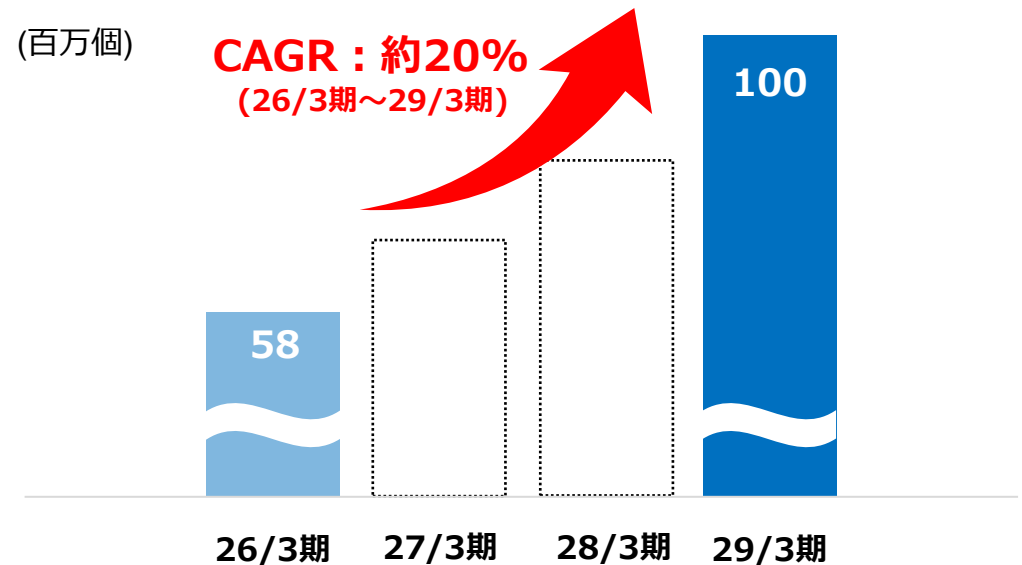
## 2 ロッドエンド・ファスナー

- ・主要顧客とのLTA(長期契約)に基づく価格是正が進み、4Qからさらなる収益改善を見込む。来期は市場成長を上回る増収と価格適正化の相乗効果により、利益率拡大へ
- ・藤沢工場のベストプラクティスを全世界へ展開し、現有設備の稼働率を大幅に引き上げる

### 5分野の需要に対するベアリング月産数量

(百万個)

CAGR : 約20%  
(26/3期~29/3期)



5分野を含む全体でさらなる需要拡大を見込む。来期は月産3.5億個の供給体制を整備

## モーターは堅調に推移、(AI)サーバーでは幅広い事業機会を創出 車載向けバックライトは今後の収益貢献に期待

### 主なポイント

#### 1 モーター

サーバー需要を追い風に、スピンドルモーターやファンモーターが堅調に推移

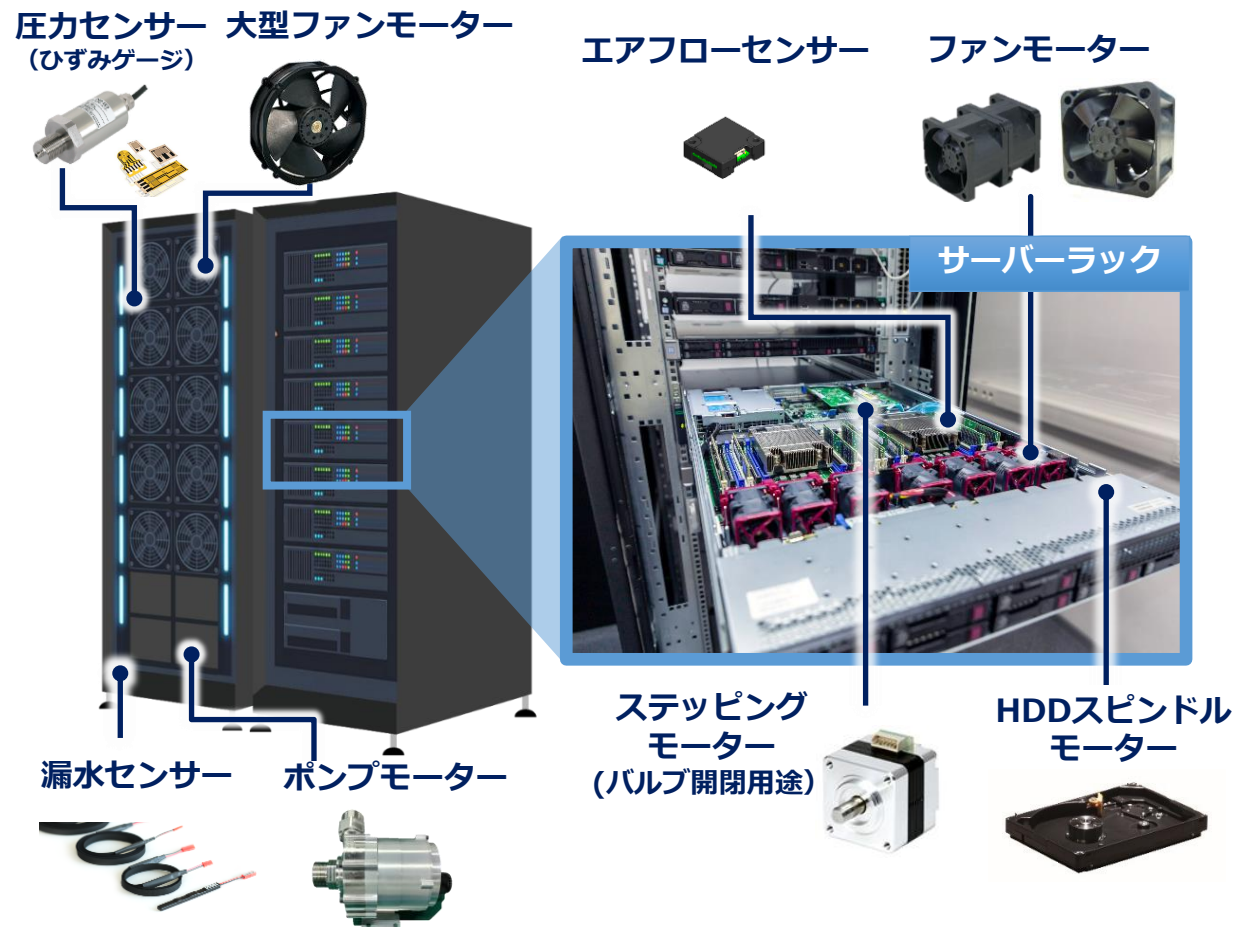
#### 2 ライティングデバイス

車載向けバックライトは、新規量産立ち上げにより収益貢献が本格化

#### 3 センシングデバイス

ひずみゲージを搭載した高付加価値製品の用途拡大(ヒューマノイドロボット等)により、事業機会を創出

### (AI)サーバーにおけるMLS関連製品



多様な製品ラインアップを提供

## アナログ半導体は電池保護ICと医療用機器向けが牽引 光デバイス、機構部品ともに期初計画達成へ

### 主なポイント

#### 1 半導体

- ・リチウム電池保護IC等の需要が好調で、売上・利益とも堅調に推移
- ・ソシオネクストから取得した小型超音波診断装置の技術により、医療向け製品を拡充

#### 2 光デバイス

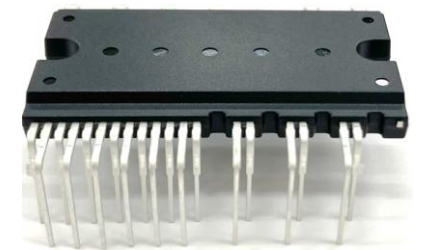
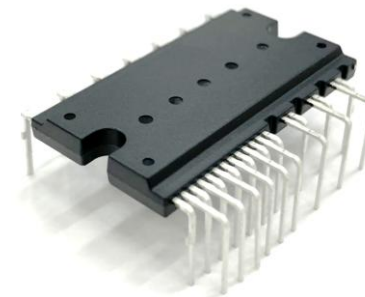
- ・スマートフォンの需要好調により、通期では期初計画を達成する見通し
- ・ディスプレイシウム(重希土類)フリー製品への切り替えが完了。最新の輸出規制強化の影響は受けない見通し

#### 3 機構部品

- ・顧客需要が好調、3Qは当初見込を上回る

### パワーモジュール事業でサンケン電気と協業開始

- ・ **28/3期**の**量産開始**を目標に、生産ラインをミネベアパワーデバイス 原町工場（福島県南相馬市）内に新設。民生品および産業品用**パワーモジュール (IPM\*)**の**後工程生産で協力体制**を構築
- ・ 将来的には、前工程・後工程でパワーモジュールの**共同開発を推進**。開発期間を短縮し、製品ラインナップ拡充を図る
- ・ 31/3期に**100億円の売上増**を想定



## ネクスペリアの影響を受け自動車業界が減速するも4Q以降は回復見込み 構造改革費用を除けば計画に対しオントラック

### 主なポイント

#### 1 4輪向けビジネス

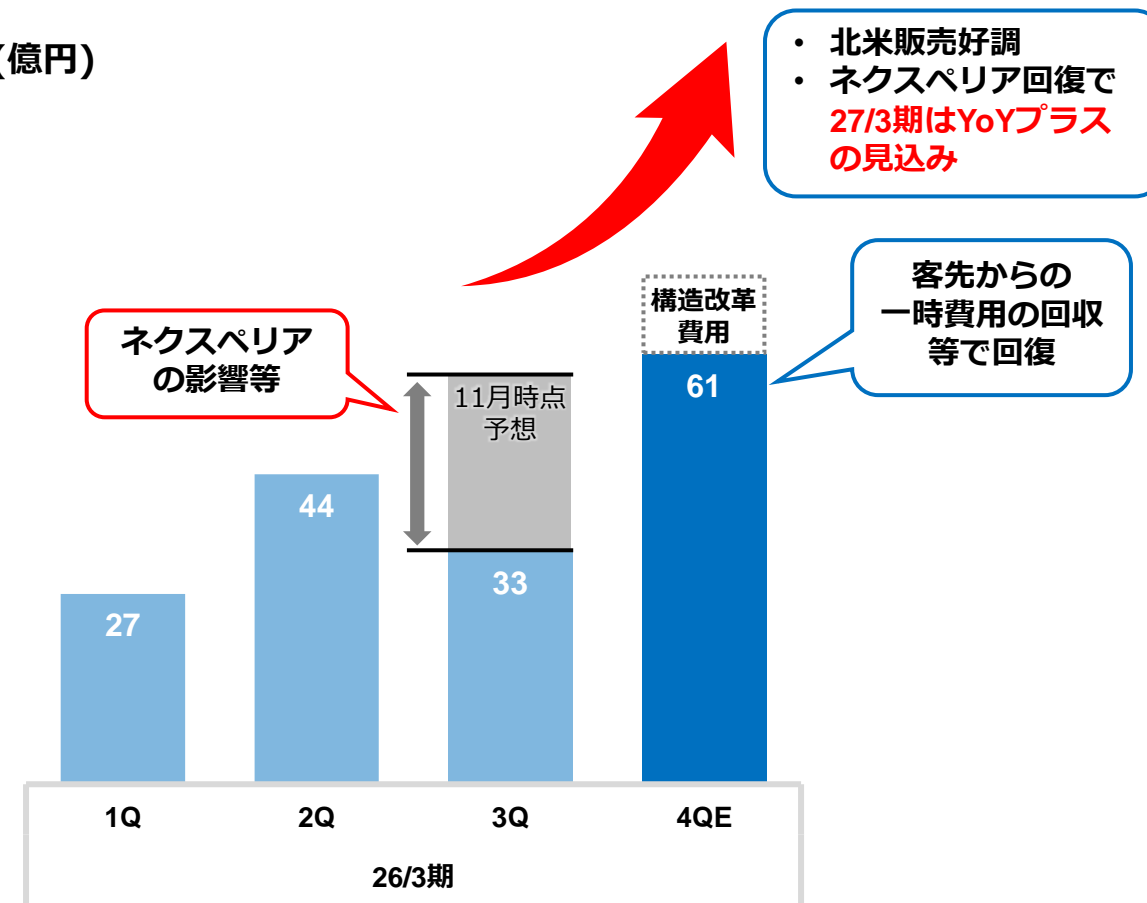
- ・ 3Qは北米向け製品がネクスペリアの半導体供給停止の影響を受け減速
- ・ 代替品・在庫確保は終わり、4Q以降に北米向けの増産を予定

#### 2 2輪向けビジネス

- ・ 2輪全般は外部要因の影響を受けず堅調
- ・ インド工場立ち上げ準備も順調

### 26/3期 AS営業利益

(億円)



## 当社CES展示は「相合」と「協創」が生む差別化により高評価 幅広い製品ラインナップでワールドワイドのお客様から受注・引合が加速

### スマートかつパワフルなロボットハンドをCESで展示

### 世界最小クラス ロボット指先用多軸センサーの開発

#### ハーモニック・ドライブ・システムズ社との「相合」と「協創」

- 指1本に2種の減速比のアクチュエータ搭載  
**スピードとパワー**を両立
- ワイヤー駆動による指先の軽量化、モーターの即応性により高速化

#### 世界最小クラス×低消費電力・高感度×量産を実現

- MEMS・小型ひずみゲージを使用した多軸力センサーを指先に組み込み、指先に伝わる力、方向、つまむ部位をセンシング
- つまむ感触、滑る感触などリアルな感触を検知可能

HarmonicDrive®

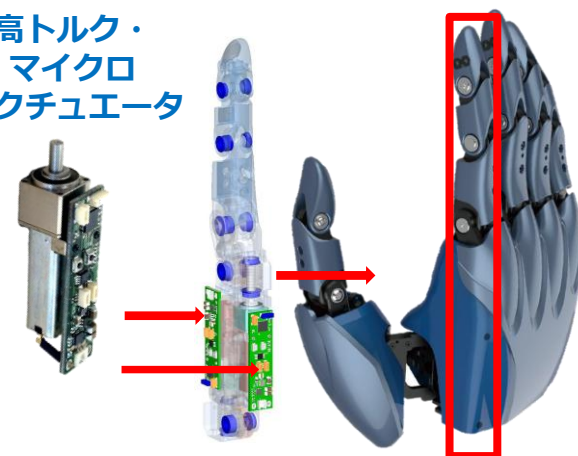
#### 極小減速機

※ミネベアミツミの  
極小ベアリング  
採用

高トルク・  
マイクロ  
アクチュエータ

高レスポンス  
DCモーター

MinebeaMitsumi  
Passion to Create Value through Difference



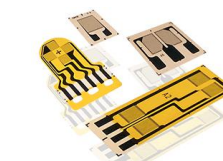
ハンド1台あたり  
の部品搭載数

ベアリング 107個  
センサー 5個  
アクチュエータ 11個

開発中



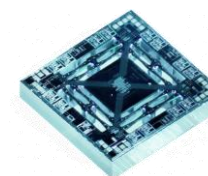
3軸力センサー



ひずみゲージ



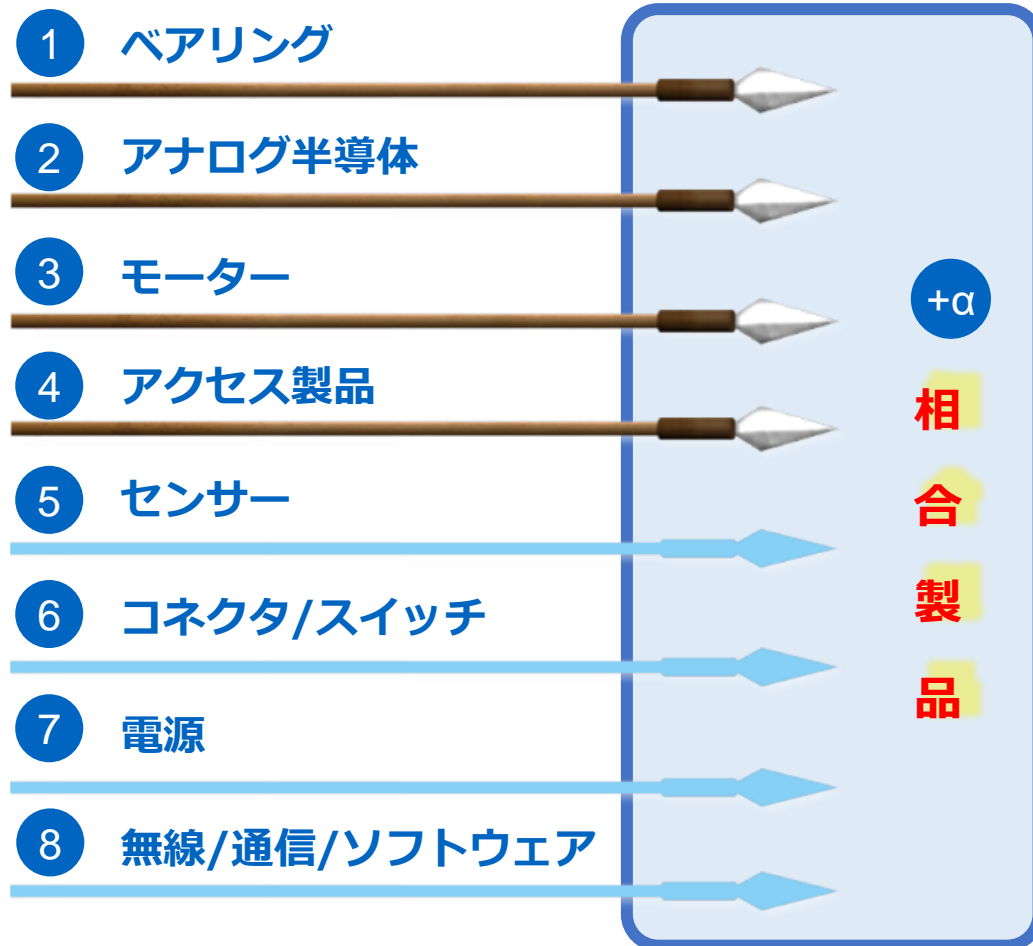
6軸力センサー



MEMS

## 製品ポートフォリオと注力成長分野を改めて定義し、29/3期の目標達成を目指す

### コア製品「8本槍」(製品ポートフォリオ)



### 成長の5分野 (注力アプリケーション)



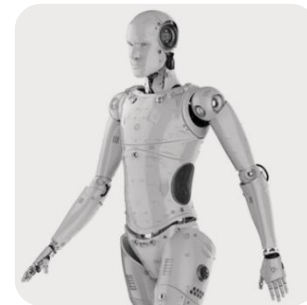
AIサーバー



商用ドローン



ニューモビリティ



ヒューマノイド  
ロボット



完全自動運転

## ① 電源事業(SE)におけるマレーシア拠点での生産終了および会社清算

- ✓ 電源事業の収益体制改善および事業強化を目的として、マレーシアにおける生産を**2025年12月20日**をもって終了。
- ✓ 今後は生産をフィリピン拠点へ集約し、生産効率の向上とコスト競争力の強化を図る。

## ② MLSおよびASでの構造改革

総費用 (26/3期)

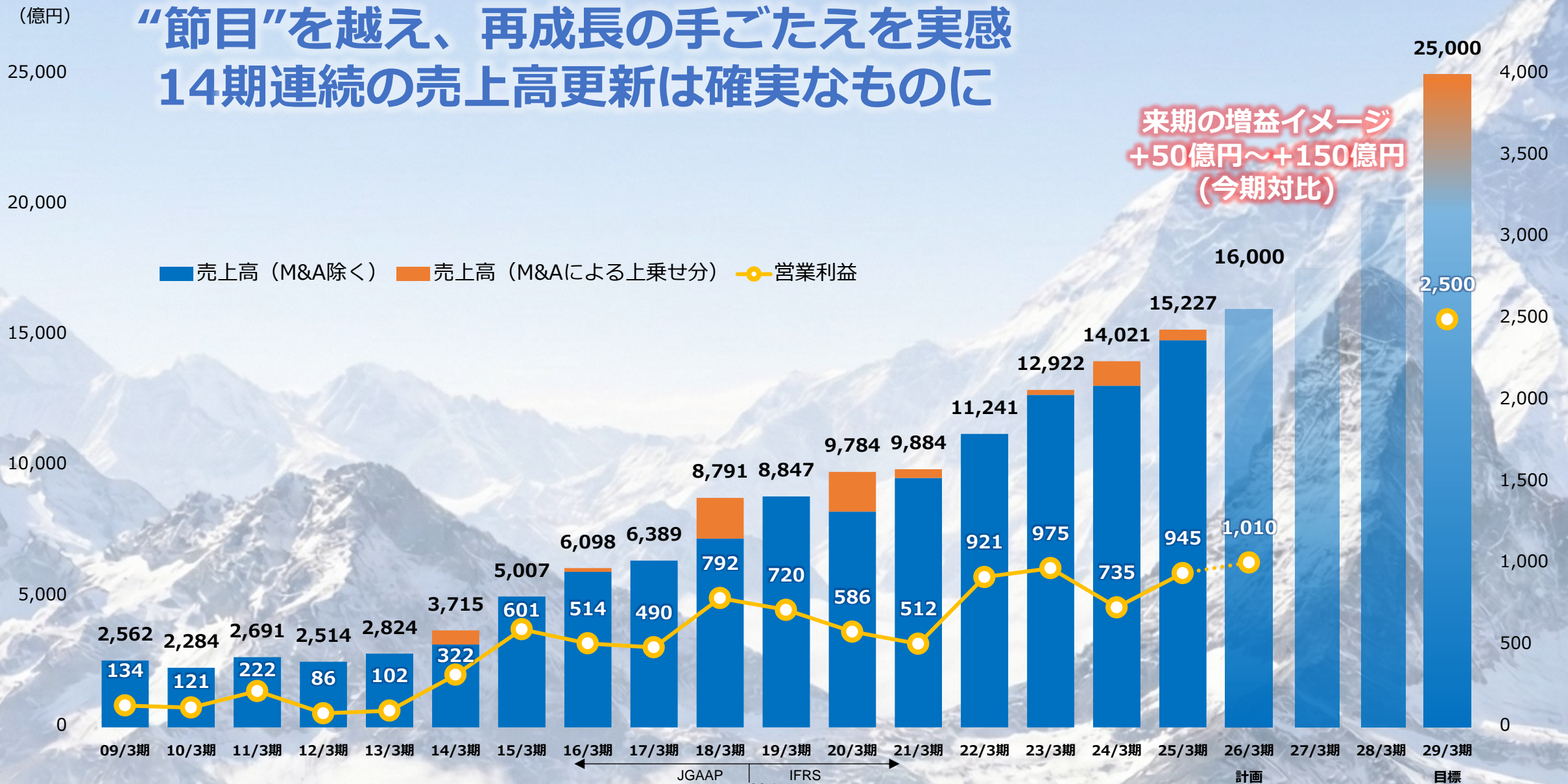
約 40 億円

3Qまで: 約10億円  
4Q予定: 約30億円

年間効果額

約 25 億円

# “節目”を越え、再成長の手ごたえを実感 14期連続の売上高更新は確実なものに



## 配当

**中間配当は、前年同期比で5円増配。年間配当は50円を予定**

26/3期 中間配当 **25** 円/株      26/3期 期末配当 **25** 円/株

(ご参考) 25/3期 年間配当45円 (中間20円 期末25円)

## 配当方針

### 持続的・安定的な配当：

中期的なキャッシュアロケーションポリシーに基づき、安定した配当を実施します

### 連結配当性向30%：

原則として連結配当性向30%程度をめどとしておりますが、経営環境を総合的に勘案し、決定します

### 長期的な信頼関係：

投資家の皆様との長期的な信頼関係を築くことを目指します



当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

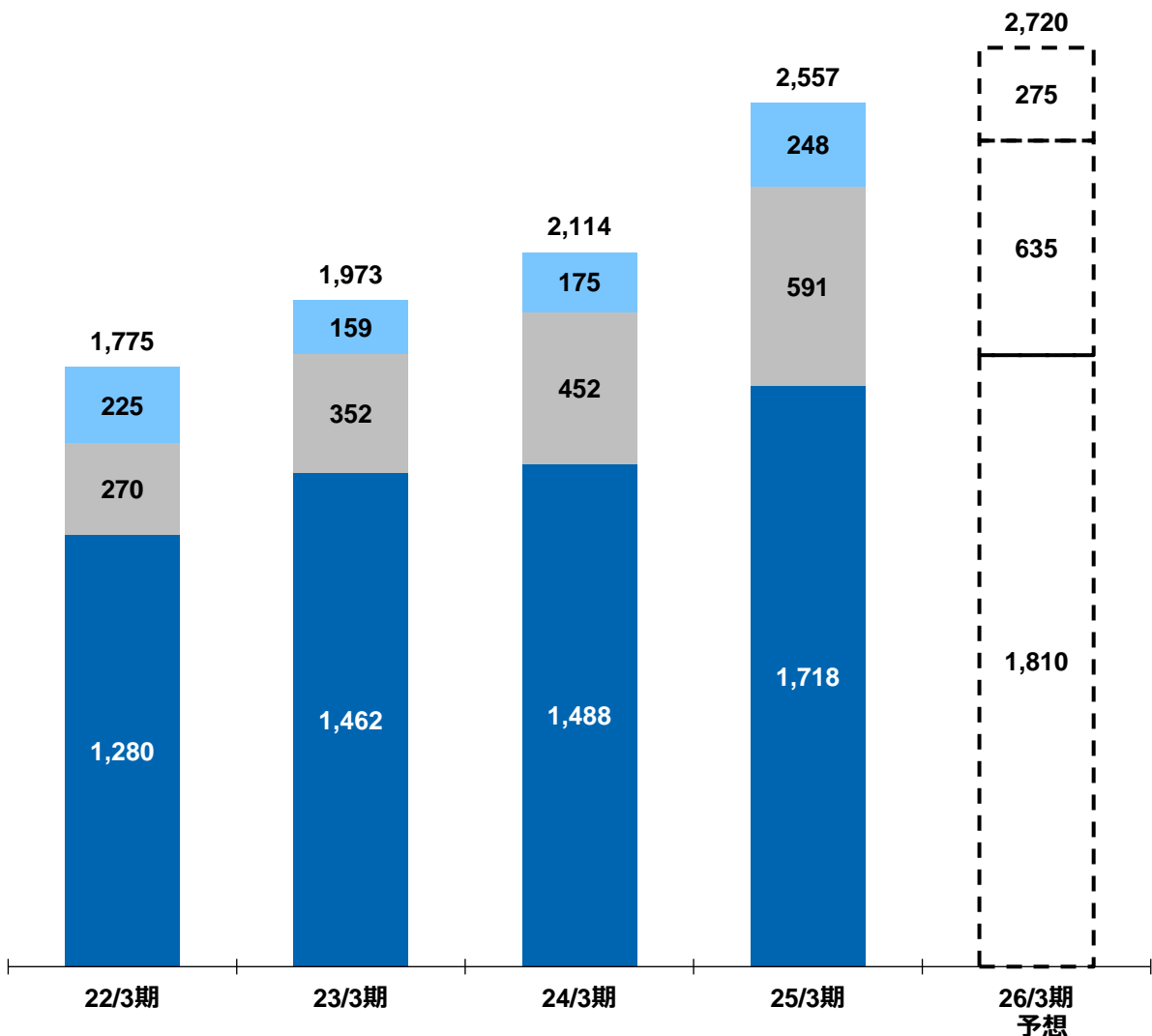
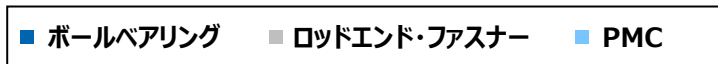
**2026年3月期 第1四半期から、業績概要をより分かりやすくお伝えするため、原則として数値を億円単位の表記に変更いたします。(従来は百万円単位等)これに伴い、百万円単位の数値を四捨五入して表示しているため、本資料内の合計額や差額などが一致しない場合がございます。詳細な数値につきましては、別途開示しております決算短信や財務補足資料等をご参照くださいますようお願いいたします。**

# 參考資料

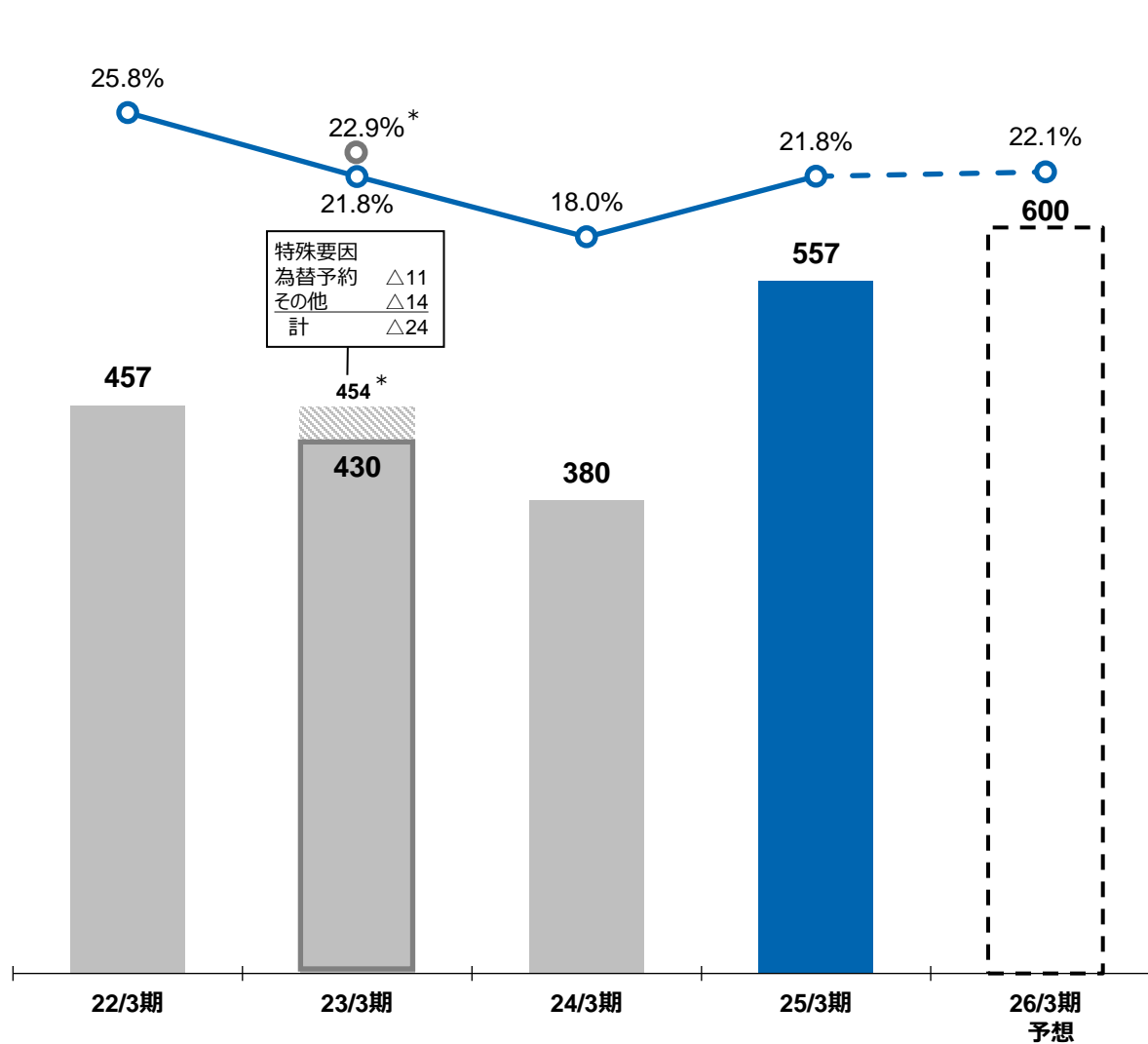
# プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

\*特殊要因除く

## 売上高 (億円)

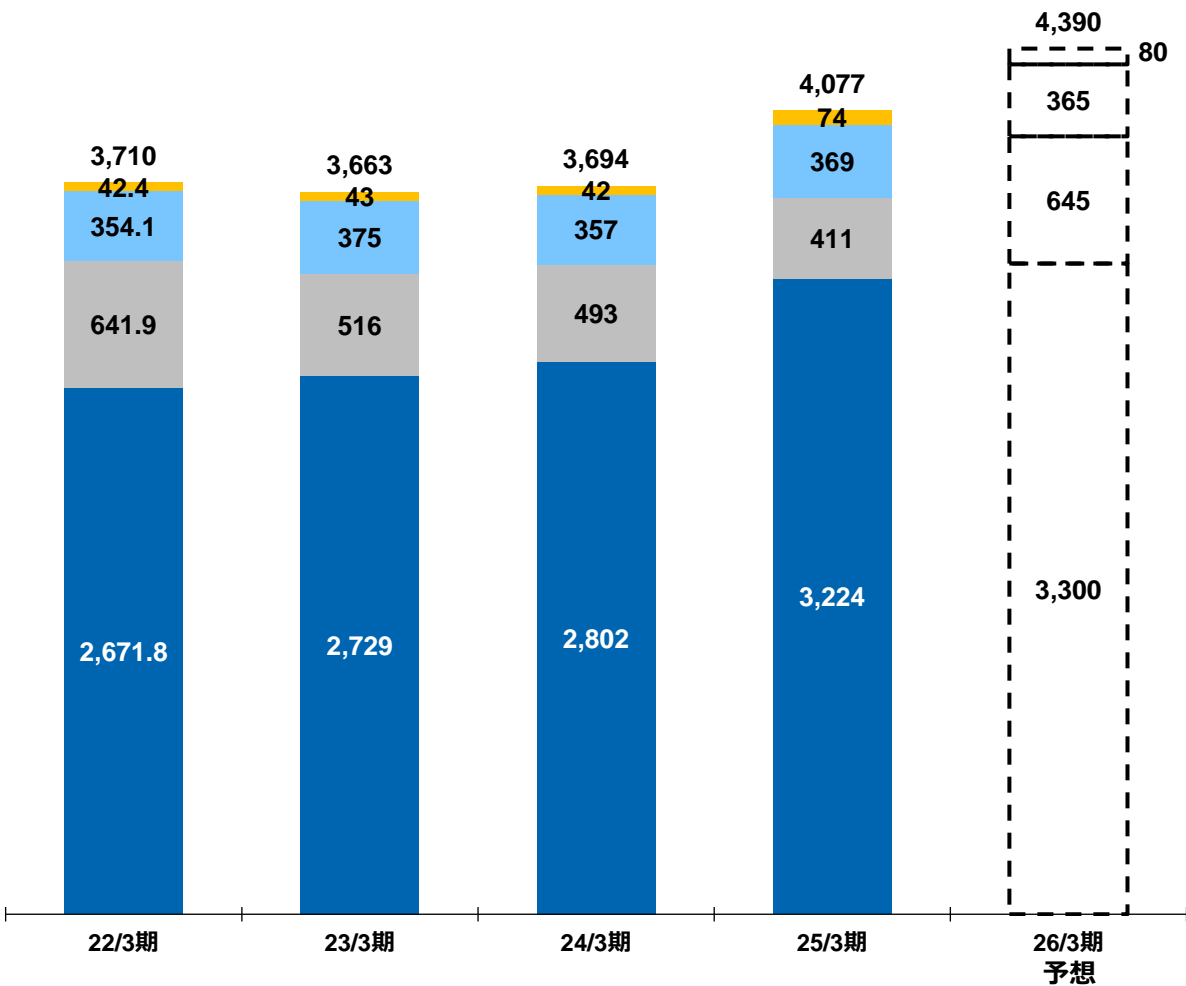
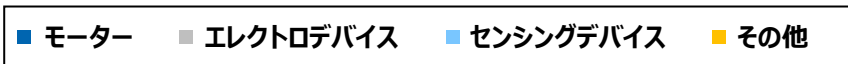


## 営業利益 (億円)



# モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

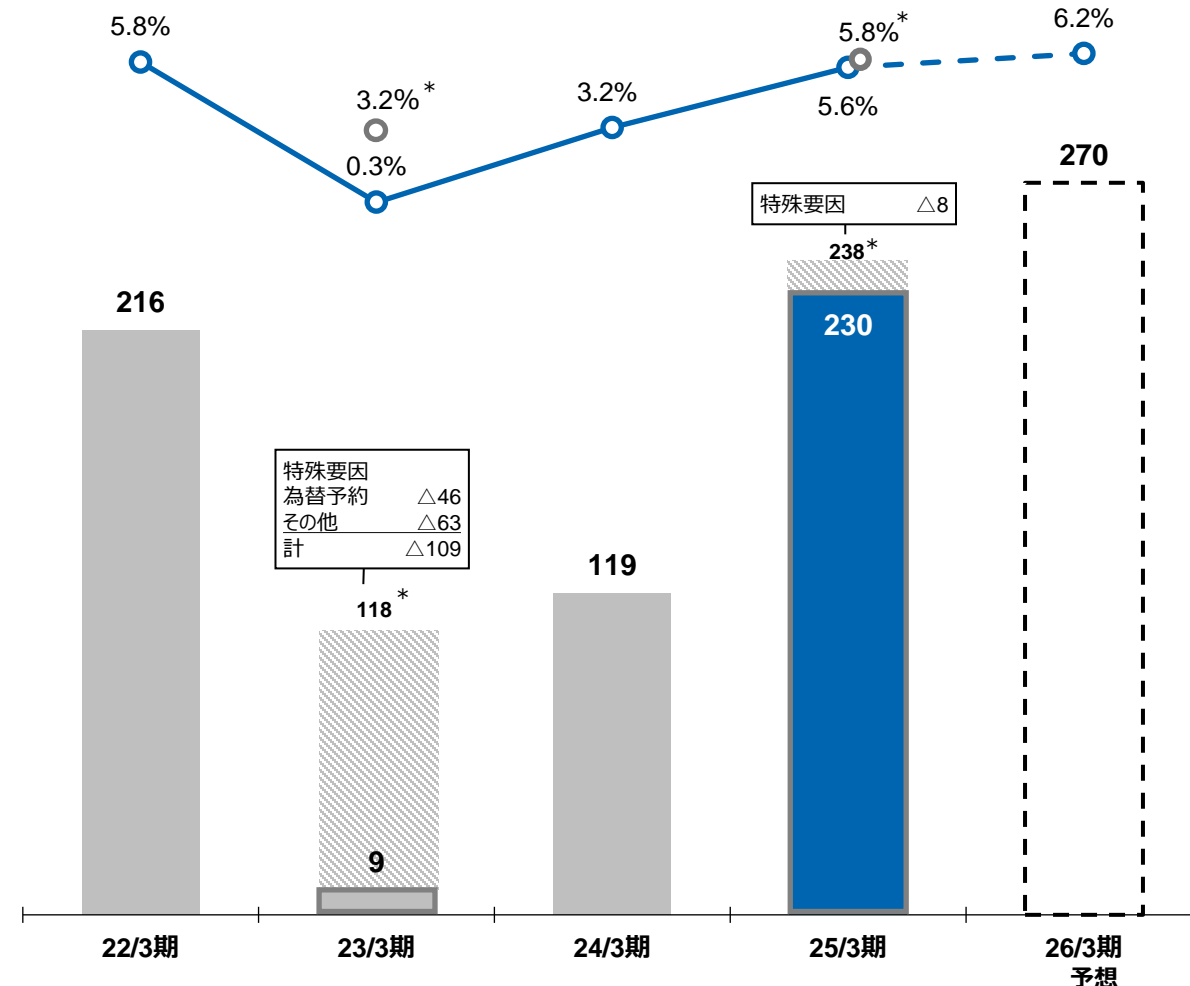
売上高 (億円)



営業利益 (億円)

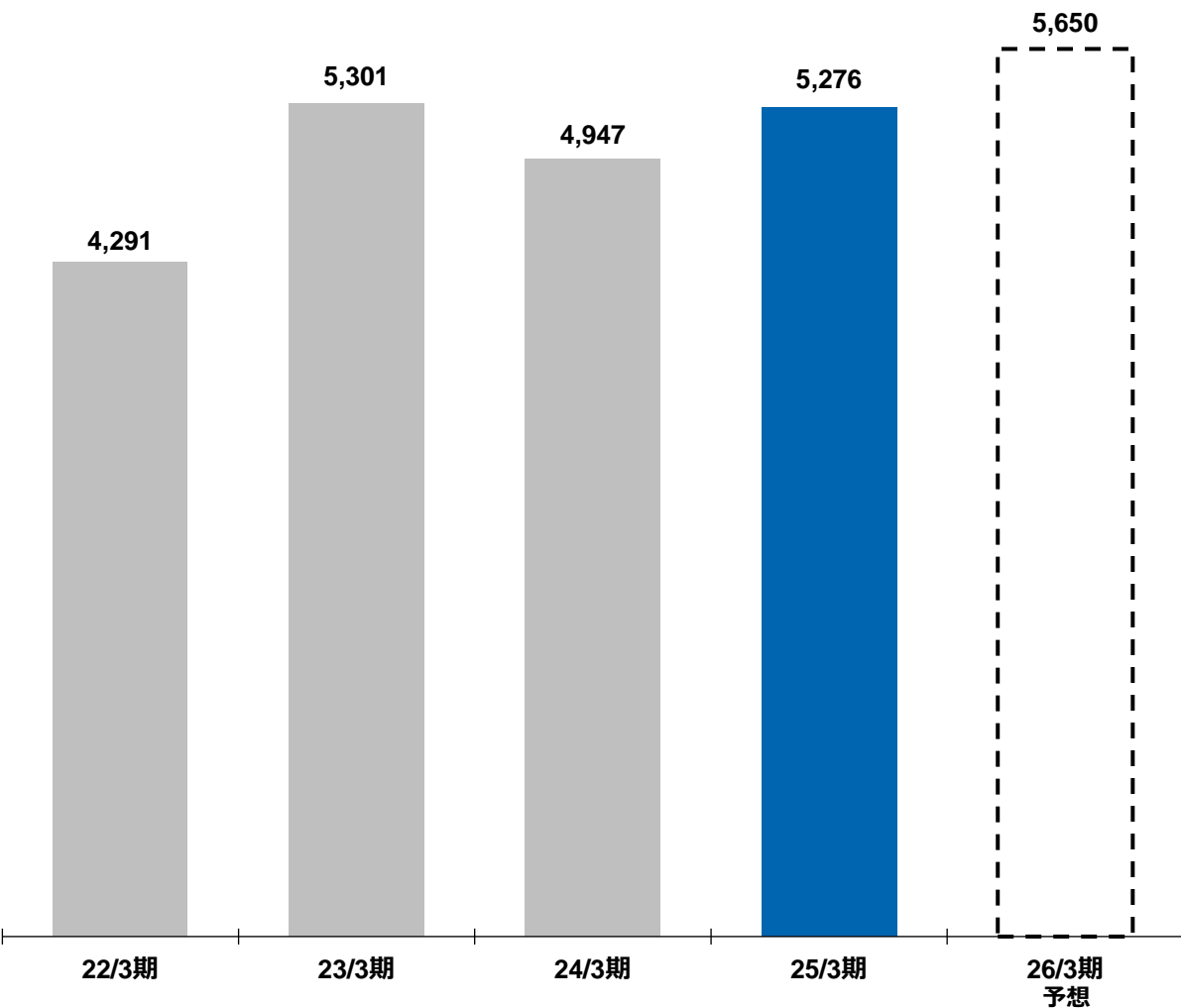


\*特殊要因除く

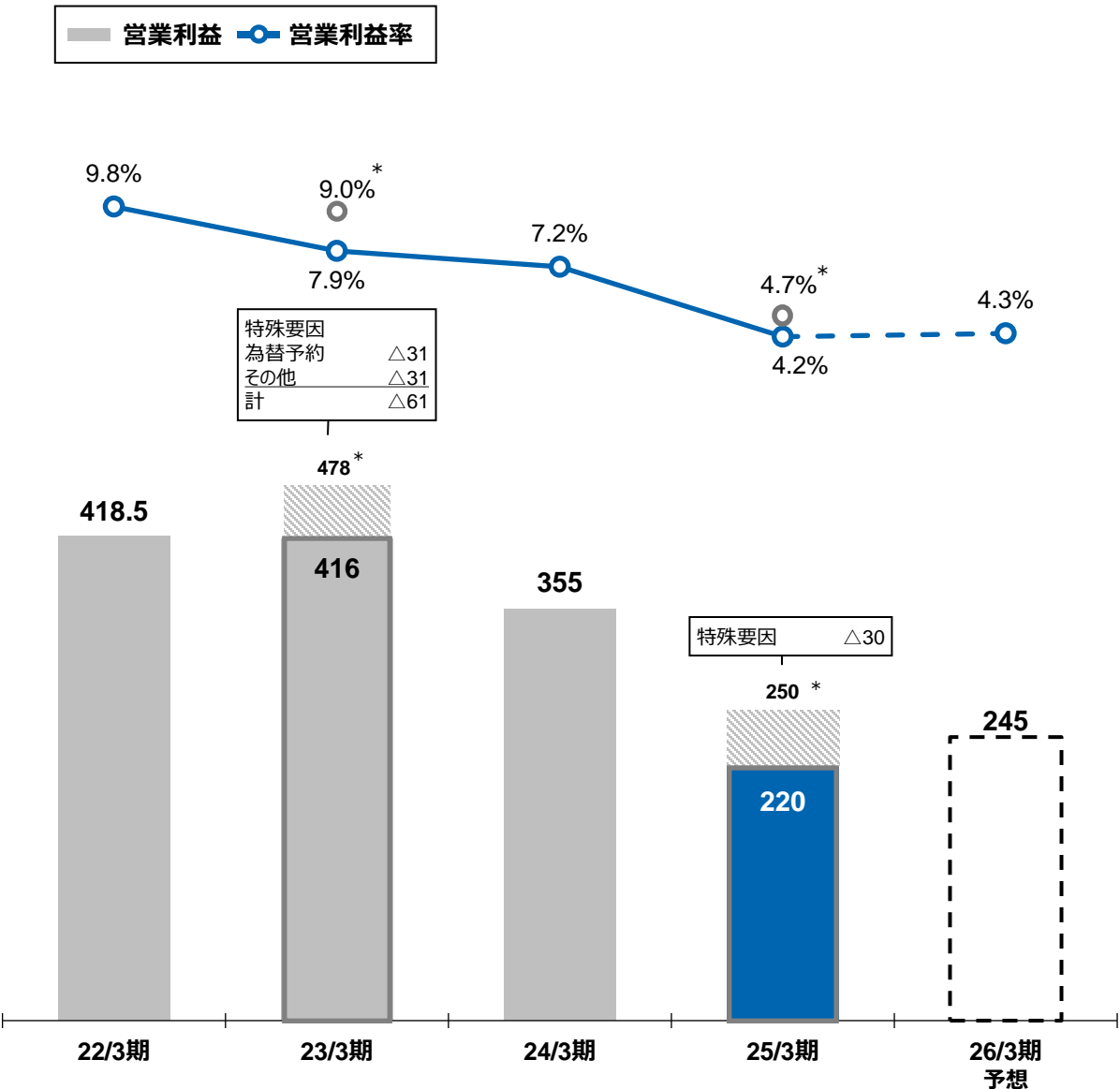


# セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (億円)



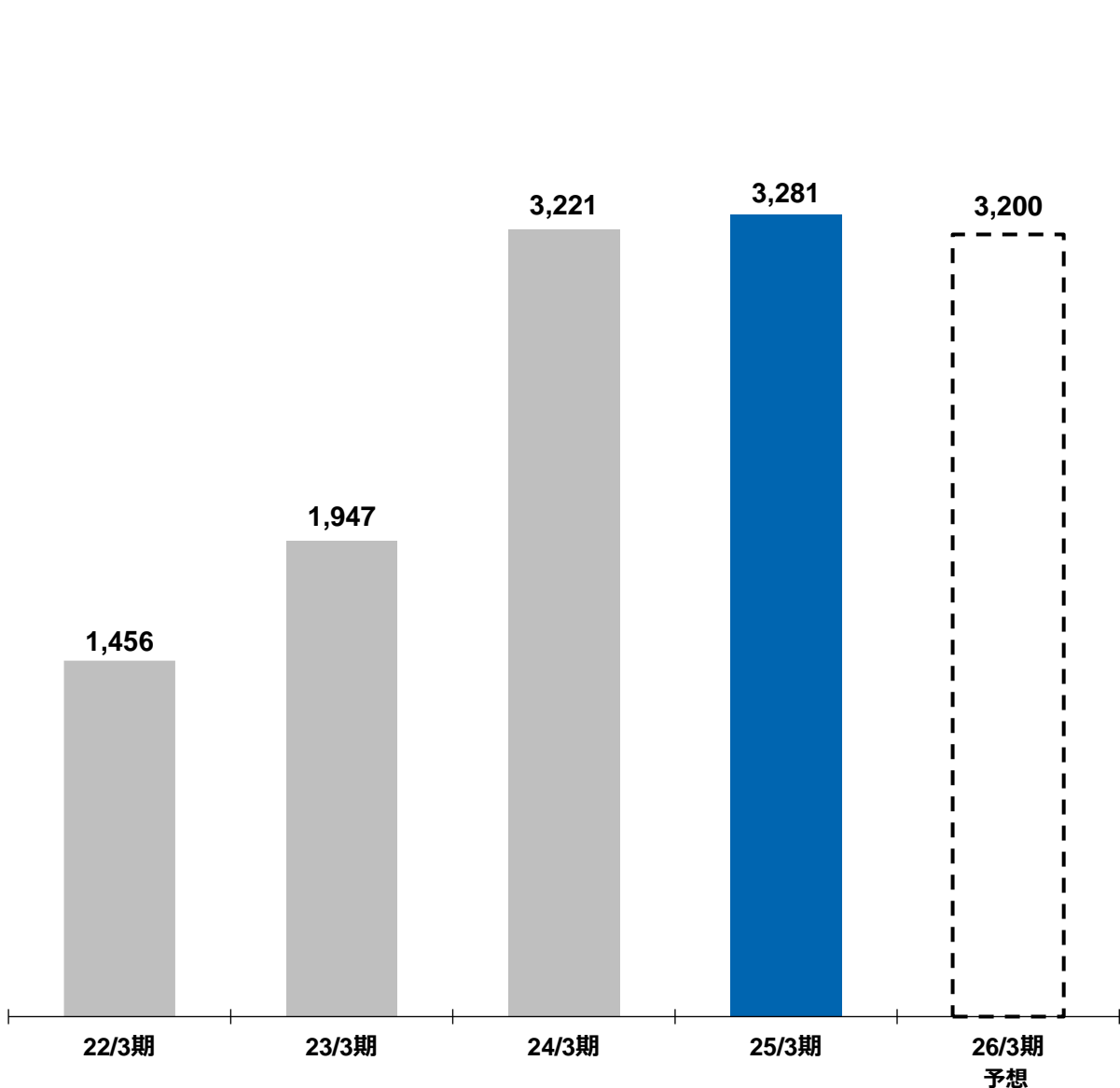
営業利益 (億円)



\*特殊要因除く

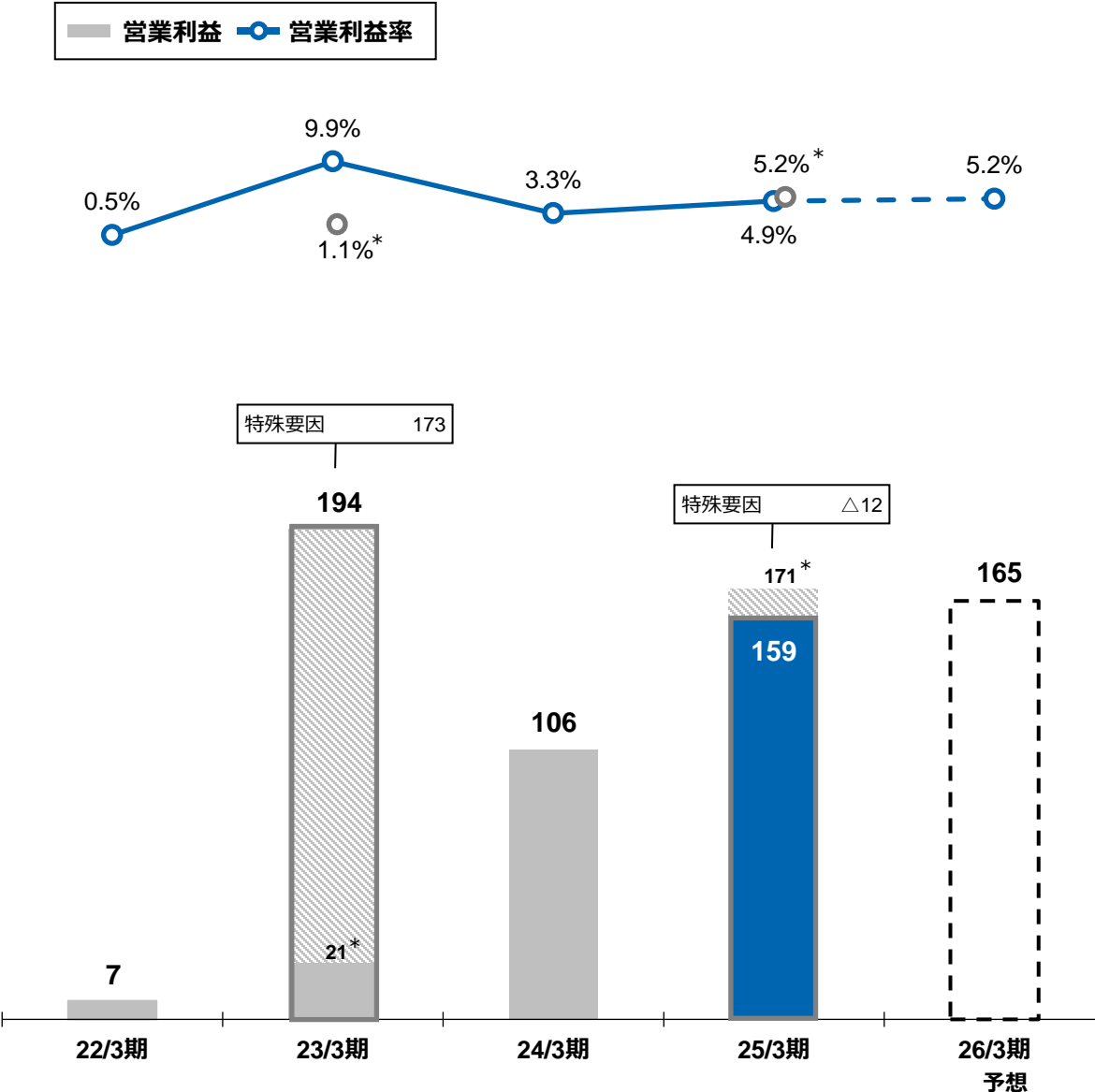
# アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (億円)



営業利益 (億円)

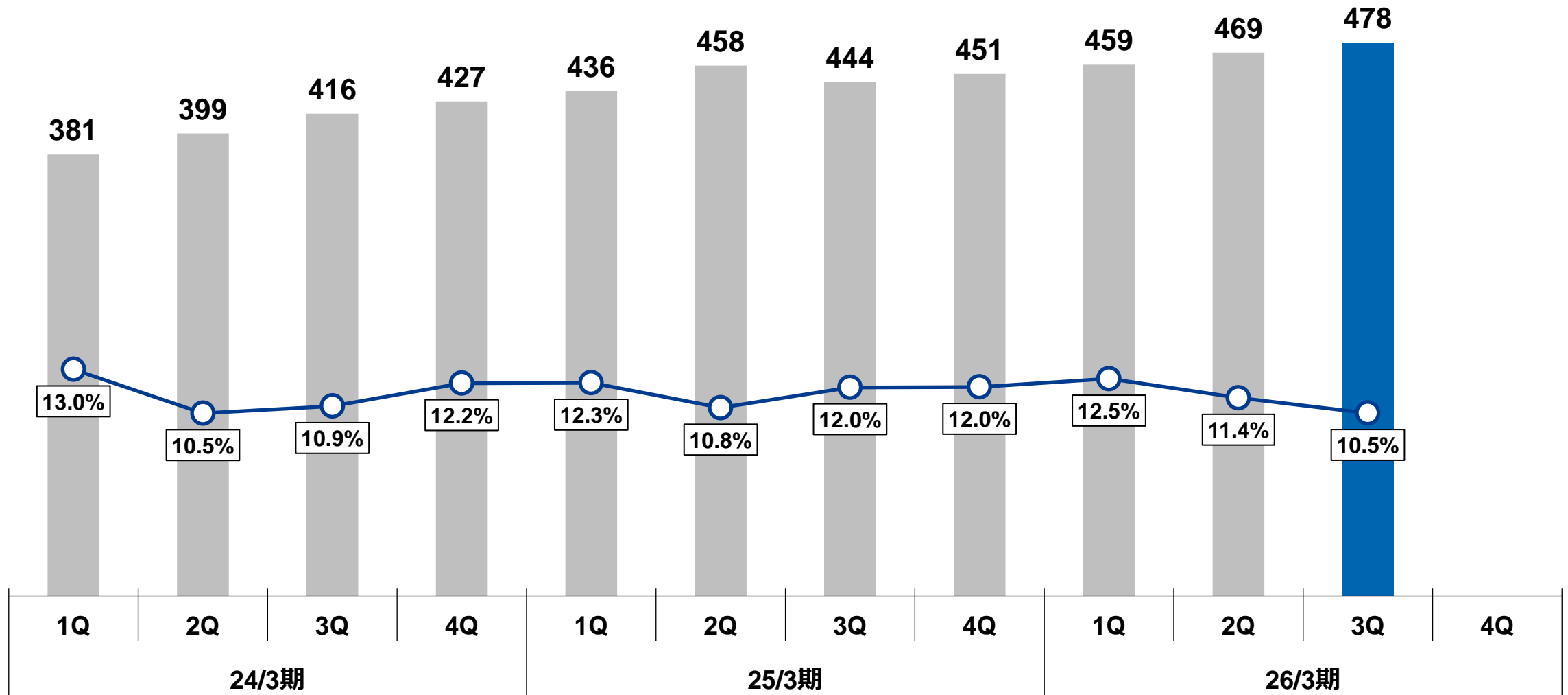
\*特殊要因除く



# 販管費

(億円)

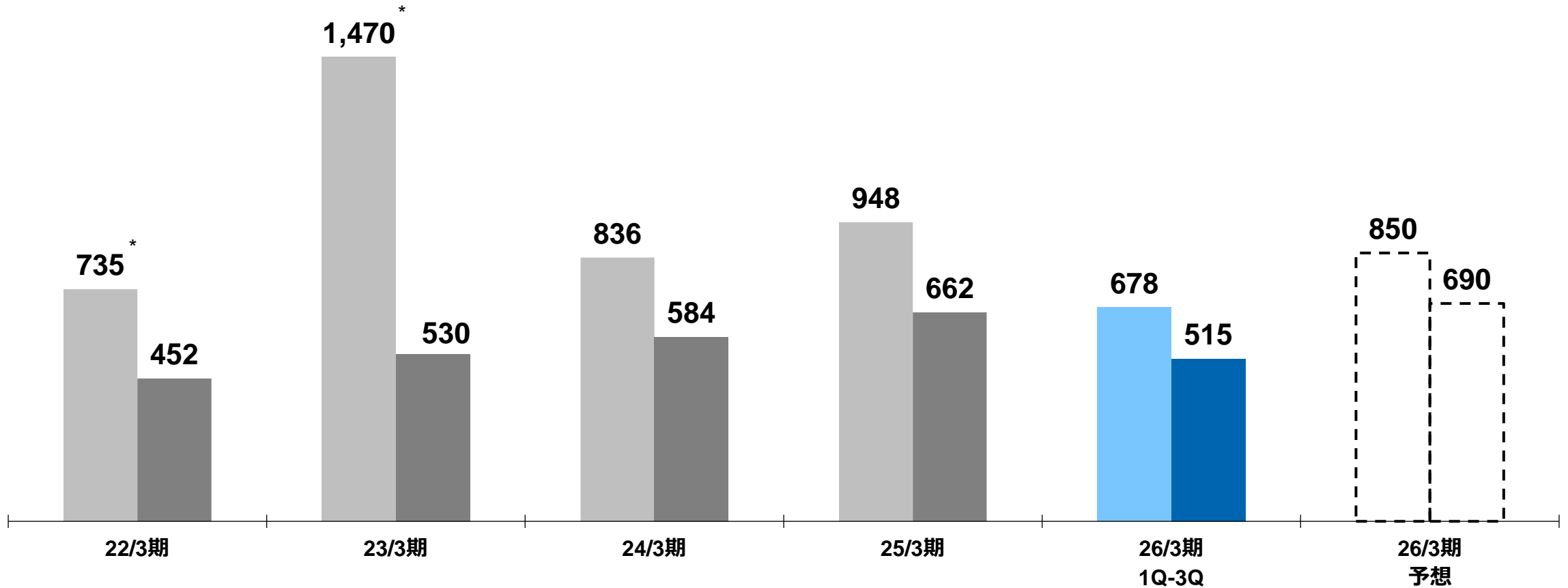
■ 販管費    ● 売上高販管費比率



# 設備投資額・減価償却費

(億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



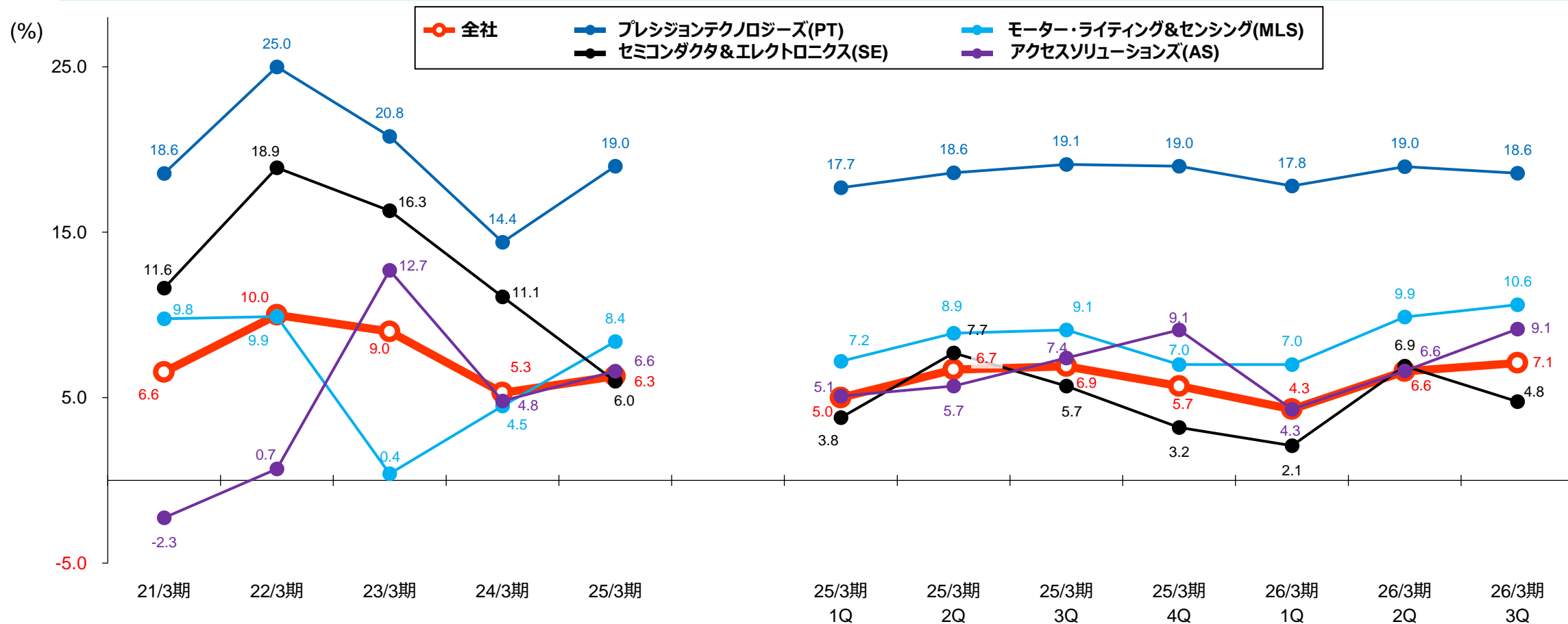
\*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

# ROIC (投下資本利益率)

ミネベアミツミ版  
ROIC

$$\text{NOPAT (営業利益} \times (1 - \text{税率)}) \\ \text{投下資本 (受取手形} \cdot \text{売掛金} + \text{棚卸資産} + \text{固定資産} - \text{支払手形} \cdot \text{買掛金)}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出



※2025年3月期実績につき、セグメント変更による組み換えは考慮していません